AK6
311
2

關東廳廳勢一斑

昭和5年

關東廳長官官房文書課

国立国会図書館

0008422000

0008422-000

AK6－311－2

庁勢一斑

関東庁長官官房文書課

昭和５年

１９３０．４

ABH

=4M55

班一勢廳

昭和五年

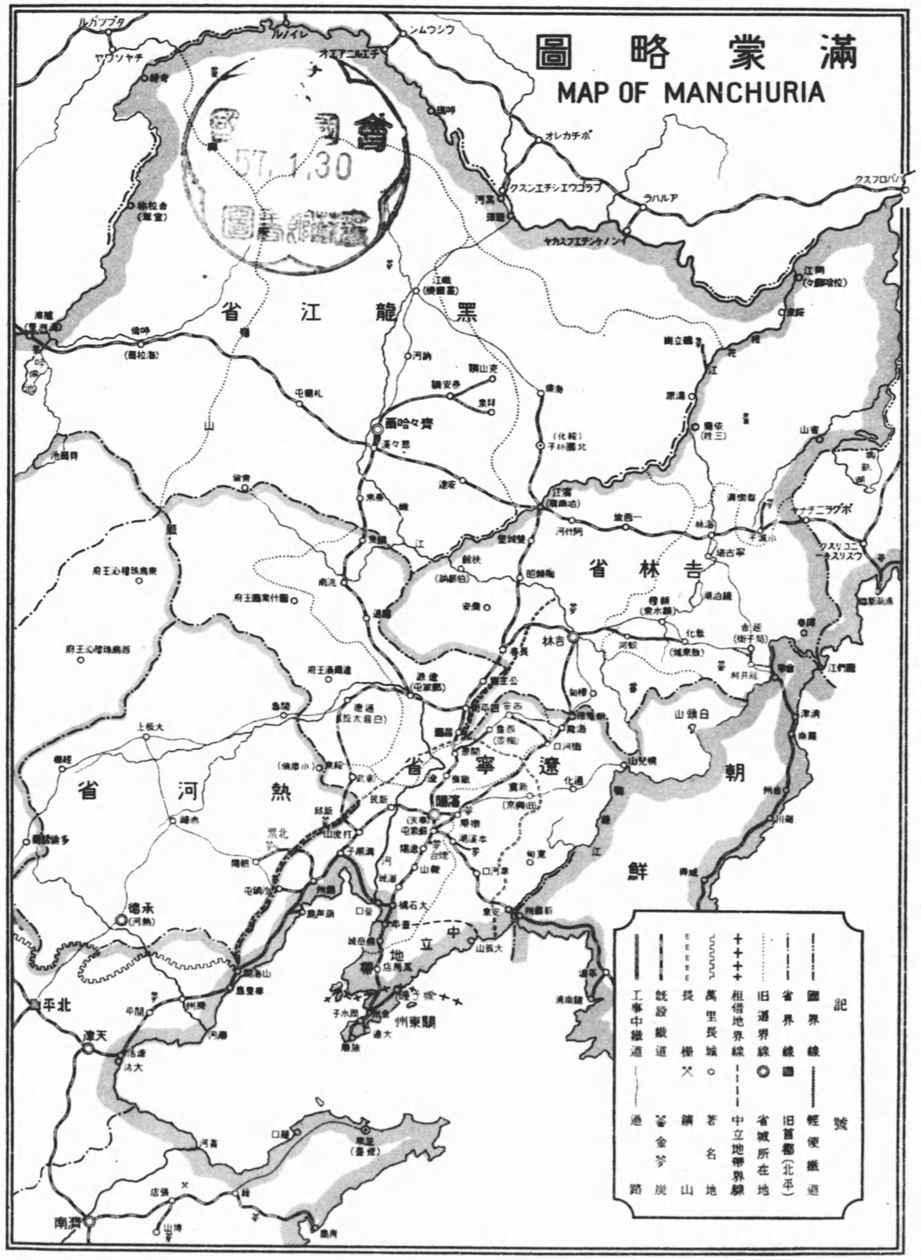
關東廳

關東廳廳勢一斑

目次

一　地誌……一
二　人口……四
三　滿洲移民……五
四　關東廳の行政……六
五　地方自治行政……八
六　外事……九
1　講和條約……九
2　滿洲善後條約及附屬協約……九
3　大正四年日支交渉……一〇
4　在滿蒙帝國領事館……一〇
七　司法及司獄……一一
1　司法……一一
2　司獄……一一
（登記）……一二
八　遞信、航空……一三
1　遞信……一三
2　航空……一五
九　海事……一六
一〇　關稅……一八
一一　財政……二〇
1　租稅其の他の歳入……二〇
2　歳計……二〇
一二　金融……二二
1　銀行……二二
2　無盡會社……二三
3　金融組合……二三

AK6
311
2


滿蒙略圖
MAP OF MANCHURIA
黑龍江省
吉林省
遼寧省
熱河省
朝鮮
中立地帶
ハルビン
チチハル
ハイラル
ヤカスフエチンケノン
クスンエチシエウコラフ
オレカチボ
ルガンブタ
ヤブリヤチ
ルイイル
シムウシフ
オエアニルエチ
ウスリ
ニコリスクスリスク
ハバロフスク
ウラジボストク
ポシエット
ハルビン
吉林
長春
奉天
大連
旅順
安東
新義州
平壤
京城
釜山
仁川
元山
清津
羅津
ウランバートル
南京
上海
天津
北平
承德
錦州
錦西
錦縣
瀋陽
撫順
鞍山
營口
大石橋
奉天
新民
四平
公主嶺
長春
吉林
敦化
琿春
圖們
龍井
間島
延吉
ハルビン
齊齊哈爾
黑河
愛琿
海拉爾
滿洲里
ハイラル
ヤカスフエチンケノン
クスンエチシエウコラフ
オレカチボ
ルガンブタ
ヤブリヤチ
ルイイル
シムウシフ
オエアニルエチ
クスフロバ
ウスリスク
ハバロフスク
ポシエット
ウラジボストク
ハルビン
チチハル

一三 度量衡、通貨……二四
1 度量衡……二四
2 通貨……二五
一四 教育及宗教……二六
1 學校……二六
2 社會教育……三〇
3 社寺、宗教……三一
一五 警察……三四
一六 衛生……三五
一七 商業……三七
一八 貿易……三九
一九 取引所……三九
二〇 農業……四一
二一 林業……四四
二二 工業……四五
二三 鑛業……四六
二四 漁業……四七
二五 鹽業……四八
二六 土木……四八
二七 電氣……五三
二八 瓦斯……五四
二九 社會施設……五五
1 慈善救濟……五五
2 公園、溫泉、新聞雜誌……五六
三〇 南滿洲鐵道株式會社……五八

廳勢一斑

一 地誌

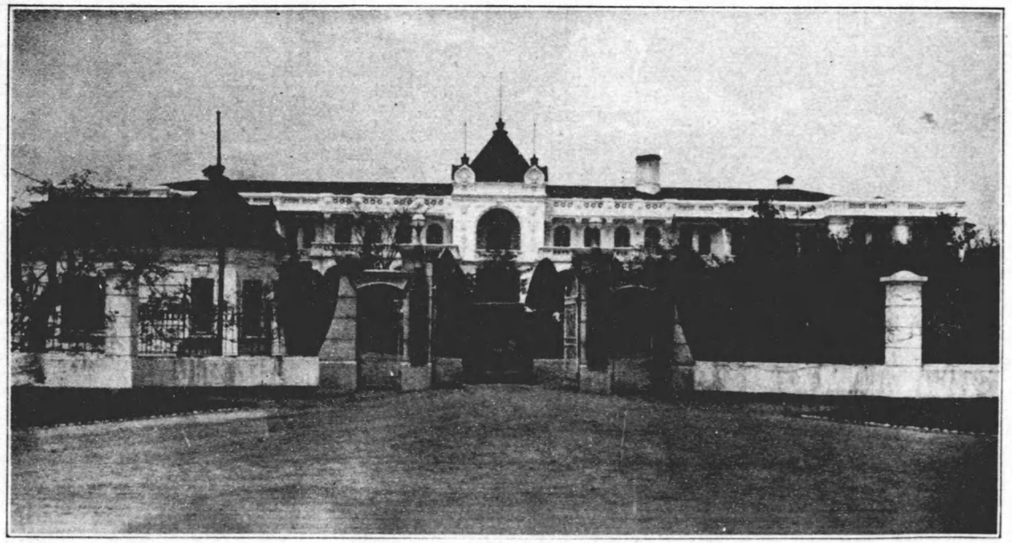
滿洲は奉天、吉林、黑龍江三省に分ち東三省と稱せしが民國統一後奉天省を遼寧省と改稱し蒙古領たる元熱河特別管區を熱河省となし前記東三省を併せ東北四省と呼ぶに至れり。

我租借地たる關東州は遼東半島の尖端に位し東は黃海に西は渤海に瀕す地域は普蘭店の北方長陽寺會附近より貔子窩の東方碧流河附近に至る線以內の土地竝島嶼とす。

南滿洲鐵道附屬地は大連長春間四百三十八哩、奉天安東間百六十一哩、其の他旅順線、營口線、煙臺線、撫順線、渾楡連絡線等を併せ蜿蜒六百九十四哩に涉る鐵道用地及市街用地なり。州外鐵道沿線附屬地の境域は鐵道の兩側を合せ概して六十二米突（本線最廣四二六米突 安奉線最廣三六米突 最狹七二米突 最狹一一米突 七六）にして市街地其の他特殊の事情ある地方に於ては比較的廣濶なる地域を有せり。我行政權の活動區域は關東州及州外鐵道附屬地にして其の面積二百四十一方里四九四に止まるも滿洲の大都邑は北滿に於ける哈爾賓、吉林等を除くの外悉く滿鐵沿線若くは其の附近に位置し州內及鐵道附屬地は滿洲經濟勢力の中樞地帶を占む。

東北四省（東三省及熱河特管區、面積及人口は昭和三年に於ける滿鐵會社調査課の推算に係るもの）

省名	面積	人口	一方里人口	備考
遼寧省	二、八六九方里	一四四、〇〇〇、〇〇〇人	一三九人	元奉天省
吉林省	一五、五〇〇	八、五〇〇、〇〇〇	五七	
黑龍江省	七、七五〇	四、六〇〇、〇〇〇	一三	
熱河省	一〇、一六〇	四、〇〇〇、〇〇〇	四〇	元熱河特別管區
計	三、三五、八四〇			



關東廳

關東廳管內

區分	面積	人口	一方里人口	備考
關東州	三四〇九・九二方里	八〇二・七六人	三九・六六人	昭和四年十二月末人口
州外滿鐵附屬地	一七九・四三	三四二・四三	一九〇・〇三	本表の外領事館管內人口
計	二四二・四三	一二三・六〇三	五〇・〇六	三八・〇八六人

關東州緯度

極東　東經　一二三°一三′一四″
極西　同　一二〇°五八′〇八″
極南　北緯　三八°四三′二〇″
極北　同　三九°三三′三七″

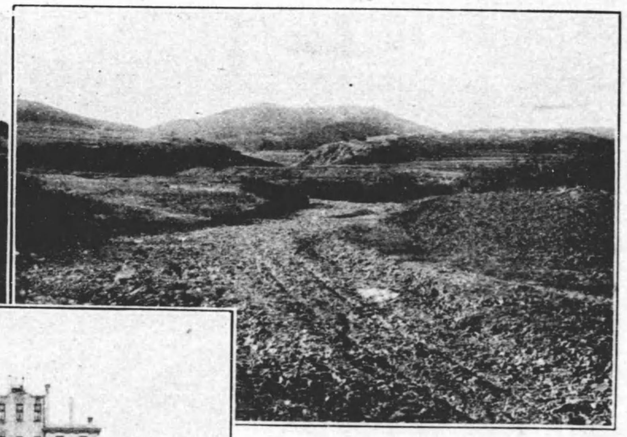
氣象

滿洲は其の緯度、地勢、風位等の關係により氣溫の如き各地相同しからず、長春以北の北滿地方は寒暑共に烈しく夏季攝氏三十九度冬季零下三十度に達することあるも南滿の南端關東州は攝氏三十五度より零下二十度の間に在りて日本の東北地方と大差なし。

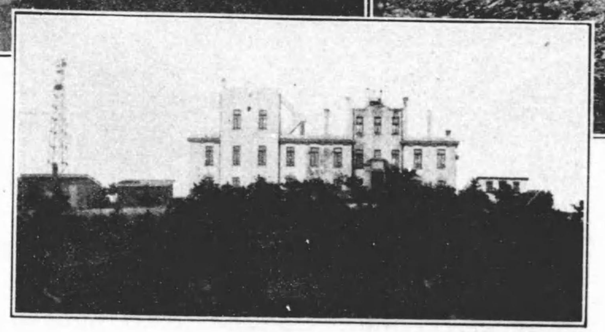
滿洲の降水量は日本內地に比し約三分の一にして五百粍乃至七百粍の間に在り關東州は平均六百粍とす。

關東廳は大連に觀測所を置き旅順營口、奉天、長春に支所を設置し一般氣象の觀測に從事し更に海岸の要地に於ける暴風警報信號及報時信號を施し各所の連絡を圖りつつありて一般產業交通及衞生方面に裨益する所多大なり。

白玉山

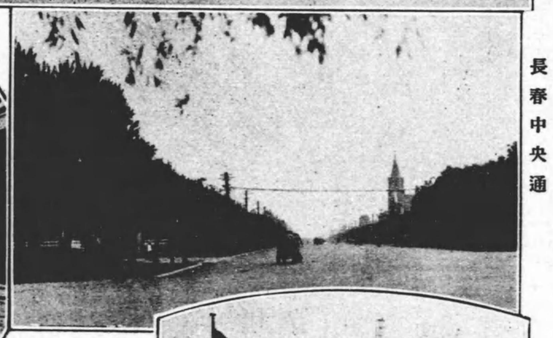


二〇三高地



大連觀測所

奉天驛前



長春中央通

金州城內

小崗子

大連浪速町

二人口

昭和四年十二月末

管内別	日本人 内地人	日本人 朝鮮人	日本人 計	支那人	外國人	合計
關東州 旅順	一二六、九四四	一〇四	一二、一七八	一二六、九二九	一七	一二八、七五四
大連	九一、一七七	一、一一七	九二、八九四	二六、五一九	五八	三五、六六一
金州	一、六五六	四五	一、七〇一	一〇〇、五三三	二	一〇二、二三四
普蘭店	一、〇九八	二八	一、一二六	四二、一四八	—	四三、二七〇
貔子窩	一、一二九	一三	一、一三六	三九、一九九	—	四〇、四一一
計	一〇四、三六四	一、五七七	一〇六、八九一	七四、四〇〇	一五七	八八、二七八
瓦房店	三五、〇八	五三	三五、一二一	九、〇一三	三	一二、五八七
大石橋	三三、一六	七一	三三、八七	四、八六七	—	八、三五四
營口	二四、八一	一八七	二六、〇八七	一四、〇六一	五	四、二三二
鞍山	六五、九九	二三七	六七、九六	一〇、一六一	四	六、九六一
遼陽	五、二六四	七三	五、三三六	八四、一六	—	一三、七五一
奉天	二一、五六五	九、七七	二一、五〇二	二一、二九一	—	四六、〇七七
本溪湖	二、七五五	六三	二、七六八	二、〇八四	—	四、八五一
安東	二四、八六	九七六	二五、七六六	四三、二二一	八	六二、九九五
附屬地 撫順	六七、七七	一八、二九二	八五、一二一	五五、一一一	三四	七三、四二七
鐵嶺	三、九五五	一、一三一	三、〇六一	三、八六一	—	六、九九二
開原	二、六七〇	八〇〇	三、四七〇	一七、八九一	—	二一、三七八
四平街	三、九八三	四四〇五	一一、九四三	一一、九四三	五	六、二五三
公主嶺	二、二四三	一、一三	二、二五六	一一、五六五	二	一三、九三三
長春	一〇〇、九〇一	一〇、一一四四	一一〇、九五九	一六、八六一	五九一	四〇、三三八
計	九五、六五八	三、九四一	一〇〇、五〇七	一九、三七	一九、三七	三四、一〇四三
牛莊	四八六	三九八	八四四	二六五	—	八八四
遼陽	一一六	一四九	二六五	—	—	二六五
奉天	三、〇六三	二、二五八	二五五、八九	—	—	二五五、八九
安東	一、九八	二、八八四	三、〇六二	—	—	三、〇六二
領事館 鐵嶺	六、〇三	五六〇三	六、二九六	—	—	六、二九六
長春	三、八六	一、六〇七	一、九九〇	—	—	一、九九〇
計	四、三九九	三、二四七	三、八〇六	—	—	三、八〇六
總計	二〇七、九六一	四八六、二五	二五、九七六	一〇〇、四八七	二五四	一二六、五九七

備考 關東州は民政署及民政支署管內別、附屬地は警察署管內別とす。

三 滿洲移民

滿洲は古來漢民族の移住地にして清朝時代には或は移民を禁止し或は之を奬勵し其の方策一定せざりしも滿洲は土地廣く沃地に富み且つ人口稀薄なるが爲、人煙稠密にして遺利漸く乏しき直隷山東方面より機會ある毎に移民の侵入し來るは自然の勢にして之を防止するは頗る難事とする所なりき而して近年支那の國情は二十年來爭亂相次ぎ軍閥匪賊の誅求掠奪と連年の天災凶作に虐げられ益々無辜の細民を脅威するに至りたれば彼等は其の生活苦より脫出し新たなる運命を開かんとして逐年開發著しき滿洲に向て殺到し來り其の數比年激增せり此等渡來者の多くは鄕里を棄て家族を伴ひたる永住的移民にして從來の一時的出稼者に比し特色を帶び來れり。

彼等移民の通路は山東方面より大連、營口に上陸するもの或は直隷方面より平寧鐵道に搭乘するもの等區々なるも其の大部分は大連及營口より管內に入り更に北上して奧地に進むものにして四時其の跡を絕たず、彼等の來るや破帽を戴き襤褸を纏ひ家財道具を舁き老幼男女互に扶擁して不安なる長途の旅行を續け未だ確然たる目的地あるにあらざるも唯だ北に向て一意歩を進めんとするの狀頗る悲壯の感あり。

左に最近數年間に於ける渡來者の統計を揭ぐ。

滿洲移民調

年次	大連經由數	渡來總數	殘留見込數	摘要
大正十二年	一七、〇〇〇人	三九、〇〇〇人	一二、五〇〇人	本表は山東方面よりの渡來者數を揭ぐ
同 十三年	一六、〇〇〇	四三、〇〇〇	一六、〇〇〇	
同 十四年	一九、〇〇〇	四九、〇〇〇	二、五〇〇	
昭和元年	二、七九〇〇〇	五九、〇〇〇	二、三〇〇	
同 二年	五六、〇〇〇	一〇六、〇〇〇	七四、〇〇〇	
同 三年	四八、〇〇〇	九三、〇〇〇	五四、〇〇〇	

海路來連の山東移民

徒歩奧地へ進む山東移民

四　關東廳の行政

日本が關東州及州外鐵道附屬地に行政權を行使するに至りたるは明治三十八年日露講和條約に依り元露國の有したる關東州の租借權及南滿洲鐵道の經營權を繼承したるに基く日本は關東州に明治三十九年關東都督府を設け大正八年其の組織を改めて關東廳と爲し產業、教育、警察、衞生等諸般の施設を爲し施政以來二十餘年、管內の治安を維持し文化及經濟の發展を促したり。

管內は關東州二百二十四方里、鐵道沿線七百哩の附屬地十八方里弱合計二百四十二方里の小地域に過ぎざるも其の位置南滿の中樞を占め歐亞連絡の咽喉に當れるを以て管內は滿洲文化の發源地たるの觀を呈せり。

關東長官の主要職權

（一）關東州の管轄

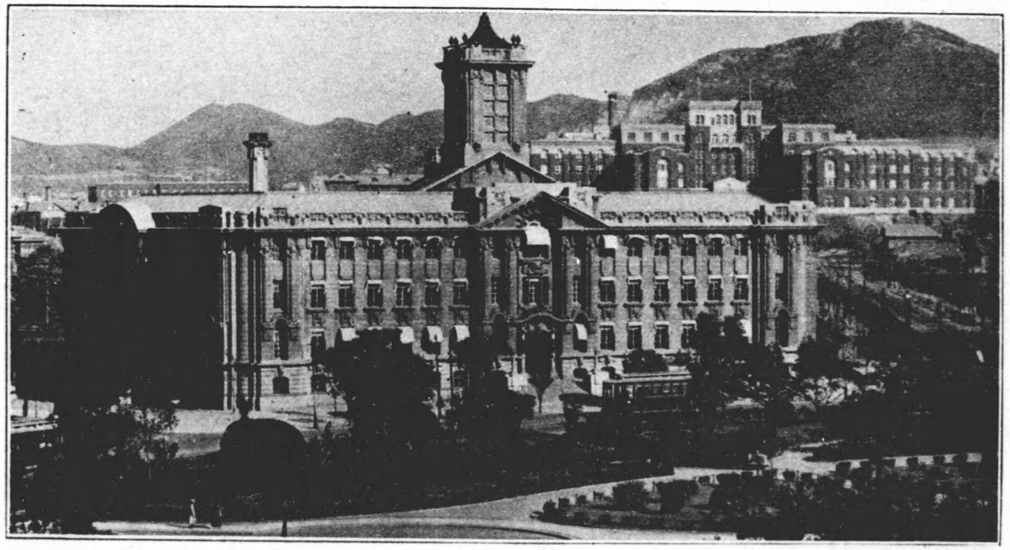
（二）南滿洲に於ける鐵道線路の警務上の取締

（三）南滿洲鐵道株式會社の業務監督

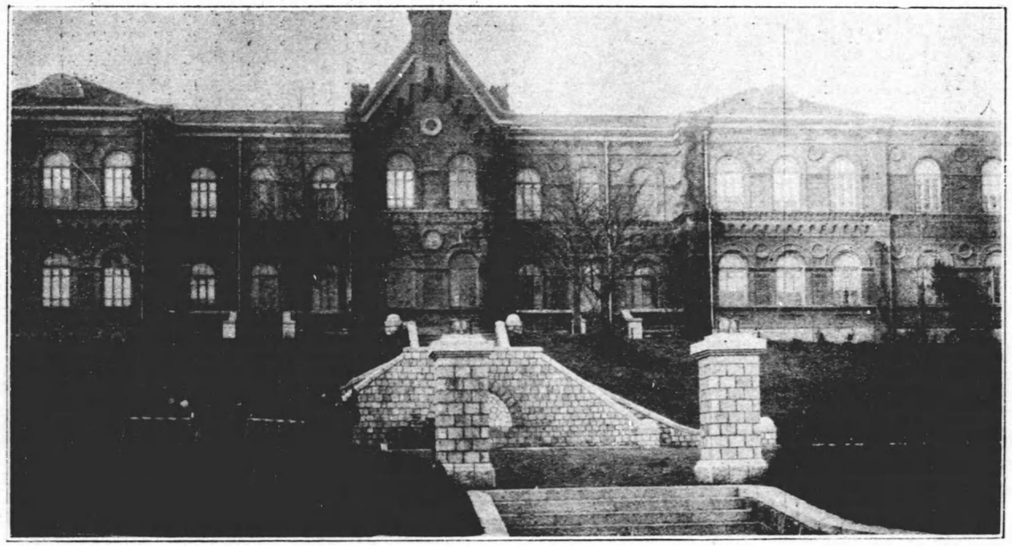
（四）諸般政務の統理（拓務大臣の監督を受く、涉外事務に關しては外務大臣の監督を受く）

（五）職權又は特別の委任に依る廳令の發布

（六）關東軍司令官に對する兵力使用の請求（管轄區域の安寧秩序の保持又は鐵道線路の警護の爲必要なるとき）



大連民政署



旅順民政署

關東廳及所屬官署表

（昭和五年一月末現在）

- 關東廳及所屬官署
  - 長官官房
    - 祕書、文書、外事課、審議室
  - 內務局
    - 地方、學務、殖產（苗圃、種畜所）、土木課
  - 警務局
    - 警務、高等警察、保安、衞生課
  - 財務部
    - 經理、財務課
  - 民政署
    - 支署
      - 小學校（州內）
      - 公學堂（州內）
      - 青年訓練所
  - 警察署
  - 消防署
  - 高等法院
    - 地方法院
  - 高等法院檢察局
    - 地方法院檢察局
  - 遞信局
    - 郵便局
      - 出張所
      - 電信取扱所
      - 電話取扱所
    - 電信局
    - 電話局
    - 郵便所
  - 刑務所
    - 刑務支所
  - 海務局
    - 支局
  - 專賣局
  - 工科大學
  - 中學校
  - 高等女學校
  - 師範學堂
  - 實業學堂
    - 大連商業學堂
    - 金州農業學堂
  - 警察官練習所
  - 觀測所
    - 支所
  - 旅順醫院
  - 婦人醫院
  - 療病院
  - 救療所
  - 農事試驗場
  - 蠶業試驗場
  - 種馬所
  - 水產試驗場
  - 取引所
  - 博物館
  - 臨時土地調查部
  - 體育研究所

五　地方自治行政

關東州に於ける地方自治制度は市制及會制の二種にして州內行政區劃を二市六十九會に分つ。

市の行政は市制實施後日尙ほ淺きも旅順大連兩市共圓滑なる市政の運行を見つつあり而して市の施設事業も市の財政狀態を考慮し漸く追ふて之を擴張し市民負擔の急激なる增加は之を避くるの方針を採りつつあり現に施設せるは公衆衞生、學校、社會事業施設、魚菜市場、公園、屠場、火葬場、墓地、街燈、公設圃（公園と街燈とは大連市のみ）等なり。

會の行政は前述の如く管內各民政（支）署管內に於ける會數は旅順六會、大連十一會、金州十四會、普蘭店十八會、貔子窩二十會、計六十九會にして現に施設しつつある事業の重なるものは敎育、勸業、警備、土木、衞生、地方收良、救護、屠場、市場等にして當局の指導監督に依り漸次自治思想の向上と共に其の成績見るべきものあるに至れり。

市の歲入歲出

歲　入（昭和四年度豫算）

科目	旅順市	大連市	計
市税	六二、九〇〇円	七九、〇〇〇円	八三二、九〇〇円
其の他	四三、五一〇	三七、五六一	四二〇、九八一
計	一〇六、三一〇	一二四、六五六	一二九、三九六

歲　出（同　上）

科目	旅順市	大連市	計
市役所費	二五、六八三円	一六八、五三四円	一九四、二一六
學校費	一九、〇四六	三一五、八三〇	三三四、八六六
衞生費	二五、四四〇	二七七、五三一	三〇三、二七一
其の他	三六、三六一	三六四、三六〇	四〇〇、七二一
計	一〇六、三一〇	一二四、六五六	一二九、三九六

會の歲入歲出

歲　入（昭和四年度豫算）

科目	旅順大連直轄	金州	普蘭店	貔子窩	計
使用料及手數料	一三〇、六九〇円	一五二、三四〇円	六六、二四〇円	一二四、二一〇円	五〇、二一八
關東廳補助金	一七、五三〇	七、五六八	一〇、〇九〇	一三、三一一	六七、五九一
會税	一四〇、三六六	八八、八六四	一四四、二五一	一六五、二七〇	七九〇、九九一
其の他	四七、九七〇	四四、二七一	二四、一七一	四七、二五一	二〇七、二五〇
計	一九七、三六六	一四八、四八九	一九三、八五二	三三七、九九一	一、一二五、八五二

歲　出（同　上）

科目	旅順大連直轄	金州	普蘭店	貔子窩	計
會事務所費	五〇、二五一円	三〇、九七〇円	五三、二三三円	六九、二一〇円	二七九、二五三
普通學堂費	七六、六五三	五三、二三五	五〇、四六六	七四、二三五	三五、二七八、九
警備費	四五、〇〇〇	五六、五五	二二、四四八	二五、二六八	一七〇、二五八
其の他	六五、七九九	五六、六二二	七六、六三二	七四、八五二	四〇八、五二三
計	一九七、三六六	一四八、四八九	一九三、八五二	三三七、九九一	一、一二五、八五二

支那馬車

六　外　事

日本と滿洲との近世に於ける關係は明治二十七八年戰役の結果より遼東半島の割讓を受けたるも露獨佛の干涉に依り之を還付し明治三十七八年日露戰爭後日露講和條約竝追加約款及日滿善後條約竝附屬協定に依り關東州の租借權及南滿鐵道の經營權を取得したるにあり。次で大正四年五月南滿洲及東部內蒙古に關する日支新條約竝關係公文に依り租借權及鐵道經營期限の延長等を協定したり。左に右三條約中の主要事項を摘記す。

1　講和條約

（一）露國政府は清國政府の承諾を以て關東州の租借權竝之に關聯する一切の權利を日本國政府に讓渡し且つ該租借地に於ける一切の公共營造物及財產を日本國政府に讓渡すること（第五條）

（二）露國政府は清國政府の承諾を以て長春以南の鐵道本支線の附屬財產竝諸權利及該鐵道に屬し又は其の利益の爲に經營せらるる炭坑を日本國政府に讓渡すること（第六條）

（三）日露兩國共に鐵道守備兵を置くの權利を保留すると雖も一キロメートル十五名以內に制限すること（追加約款第一條第二項）

（四）滿洲に於ける鐵道の經營を全く商工業の目的に限り軍略の目的を有せしめざること（第七條）

2　滿洲善後條約及附屬協約

（一）東三省の要市十六箇所を外國人の居住及貿易の爲に開放すること（第一條）

（二）安東鐵道經營及改築の件（第六條）

（三）南滿洲鐵道と清國各鐵道との接續業務の爲め別約を設くべきこと（第七條）

（四）南滿洲鐵道用材料免稅の件（第八條）

大連の櫻

州内農家の春（杏）

（五）營口、奉天、安東縣に日本人居留地を劃定する爲め別に協議を遂ぐべきこと（第九條）

（六）鴨綠江採木公司設立及經營の件（第十條）

（七）滿韓國境貿易に關し相互に最惠待遇を與ふべきこと（第十一條）

3 大正四年日支交渉

（一）旅順大連の租借期限竝南滿洲鐵道及安奉鐵道に關する期限を何れも九十九箇年に延長す（第一條）

（二）日本國臣民は南滿洲に於て各種商工業上の建物を建設する爲め又は農業を經營する爲め必要とする土地を商租することを得（第二條）

（三）日本國臣民は南滿洲に於て自由に居住往來し各種の商工業其の他の業務に從事することを得（第三條）

（四）日本國臣民は東部內蒙古に於て支那國民と合辦に依り農業及附隨工業の經營を爲さむとするときは支那政府之を承認すべし

（五）支那國政府は成るべく速に外國人の居住貿易の爲め自ら進んで東部內蒙古に於ける適當なる諸都市を開放すべきことを約す

（六）南滿洲に於ける鑛山の試掘又は採掘允可に關する件（附屬公文）

（七）滿蒙に於ける鐵道に關する件（同上）

（八）南滿洲に於ける政治財政軍事等顧問傭聘の件（同上）

4 在滿蒙帝國領事館

在哈爾賓總領事館、在吉林總領事館、在間島總領事館（琿春、百草溝、局子街、頭道溝各分館）、在奉天總領事館（通化、新民府各分館）、在滿洲里領事館、在齊々哈爾領事館、在長春領事館（農安分館）、在安東領事館（臨江分館）、在鐵嶺領事館（掏鹿、海龍各分館）、在鄭家屯領事館、在遼陽領事館、在牛莊領事館、在赤峰領事館、在張家口領事館

七 司法及司獄

1 司法

關東州に於ける司法制度は三審制度にして地方法院に於て第一審裁判を行ひ高等法院覆審部に於て第二審の裁判を行ひ同上告部に於て第三審の裁判を行ふ。地方法院は大連に、高等法院は旅順に在り。

明治四十一年法律第五十二號滿洲に於ける領事裁判に關する法律公布せられてより滿洲に於ける領事官の豫審を爲したる事件の公判は關東廳地方法院之を管轄し滿洲に於ける領事官の爲したる裁判に對する控訴又は抗告は關東廳高等法院覆審部、滿洲に於ける領事官の爲したる裁判に對する上告又は上告棄却の決定に對する抗告は關東廳高等法院上告部之を管轄することとなれり。

檢察事務は大正十二年五月法院に檢察局を併置し檢察官長を置き爾來關東長官に直屬せしめたり。

最近三箇年間の民事刑事事件數

民事件數

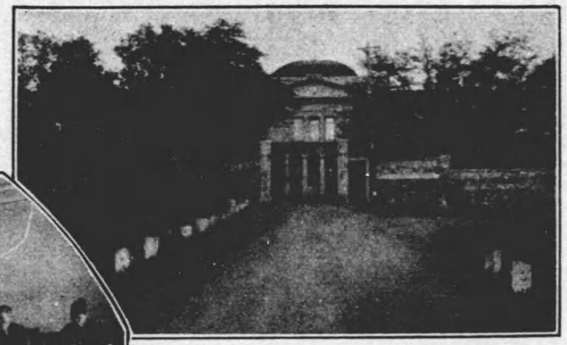
年次	第一審	第二審	第三審	非訟事件	其の他	計
十五年	八八七	二二	九	三三八	三三七	四六三
二年	一〇一五	二三	一四	二四六	三四二	四八一九
三年	一〇五三	一四五	三	二〇八	三三三	四八三八

刑事件數

年次	第一審	第二審	第三審	再審抗告共助其他	計
十五年	八八二	一四五	二四	二二	一二八〇
二年	一七八六	一四〇	二四	三七	二二八七
三年	一八〇〇	一八九	三	三六	二二九七

檢察及犯罪卽決受理件數

年次	檢察件數	卽決件數
十五年	一、九五三	七、六六六
二年	三、一三六	一二、四六五
三年	三、一四一	一一、九〇八



高等法院

大連地方法院刑事法廷

旅順刑務所作業狀況（一）

旅順刑務所作業狀況（二）

登記

關東州に於ける登記事務は不動産登記、法人及夫婦財産契約登記、商業登記、住宅組合登記、金融組合登記等にして支那特有のものの取扱に付ては別に規定を設けたるも其の他は總て內地法を準用し民政署長及同支署長をして其の取扱を爲さしめつつあり。

最近三年間の取扱件數

年次	土地	建物	船舶	商業及法人	その他	計	登記收入
十五年	九六五	二五七三	五五	八〇五	三八〇九	一六八六六	三七九九六六
二年	二二一九	三一六九	九四	七五一	六〇一八	三二二三	六五二一四七
三年	三三一〇三	三三〇九	二八	八二三	六九三三	二四二九二	四六八〇〇四

2 司獄

當廳刑務所は本所を旅順市に支所を大連市に置き本所は高等法院覆審部又は上告部に控訴若は上告中の刑事被告人と男子處刑者を收容し支所は專ら地方法院の裁判に繫屬する者又は檢事の取調中に屬する刑事被告人、被疑者及刑務支所の經理に必要なる短期處刑者並女處刑者を收容せり。

行刑法規は內地法を準用し處刑者は日支人の區別なく專ら作業に精勵せしむるの氣風を馴致し且つ教誨師をして絕えず精神陶冶を計らしめ衷心遷善の實を擧げしむることに努めつつあり。

收容人員は左表の通り年々增加しつつあり之一は支那山東省地方より戰禍に依る失職飢民の多數渡來するに因るものにして著しく增加するは支那人なり又當廳刑務所は明治四十五年以來南滿洲に於ける帝國領事館の領事裁判に依る長期處刑者の刑の執行囑託に應じ之を收容しつつあり。

在監人一日平均人員表

年次		受刑者	刑事被告人	勞役場留置	計
十五年	本所	六五五	二五五	人一一七	七三二六
	支所	四八	一六	一九六	
二年	本所	六六六	三三	二一四	七九四六
	支所	四七	九	二八三	
三年	本所	七五五	一三六	二八四	八三五
	支所	五七	一五五	二八六	

八 遞信、航空

1 遞信

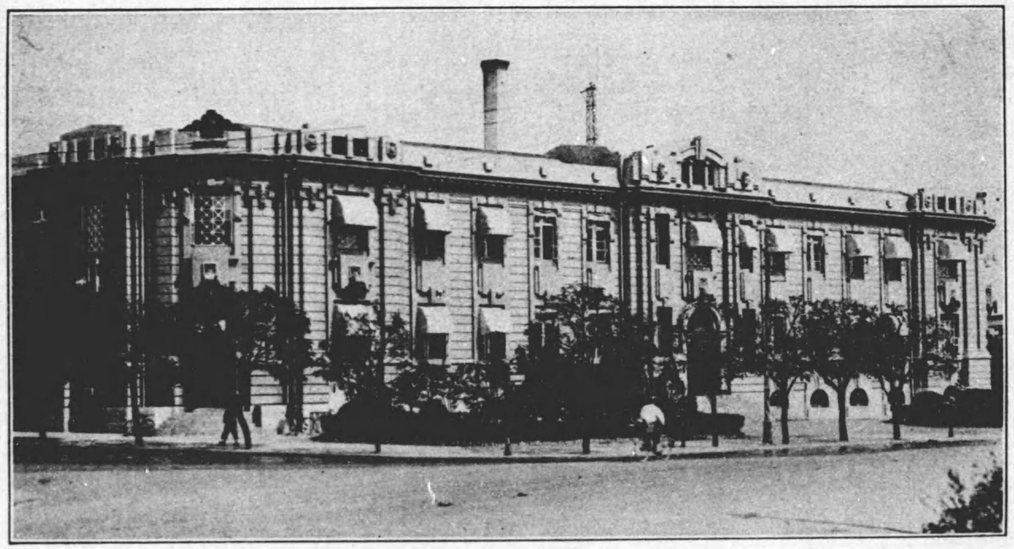
關東廳遞信局は之を大連に置き郵便、電信、電話、郵便爲替、郵便貯金、年金恩給支給に關する事業の施設管理並官廳用及私設電信電話、無線電信、無線電話、電氣事業の監督並航空に關する事務を掌理し郵便局、電信局、電話局及郵便所に於ては之が現業事務を掌る。

明治三十九年軍用機關繼承當時九十四箇所なりし局所は今や三百六十七箇所を算し滿洲に邦人の在住する所殆んど通信の途備はらざるなきに至れり而して管內通信業務は經濟界が稍恢復の機運に向ひたると滿洲駐劄部隊の異動及支那事變に關する軍事外交通信の激增したる等に依り各業務共頗る繁劇を極め昭和三年度に於ては郵便電信電話の收入は六百六十七萬餘圓に達したり。

ラヂオは逐年機器の進步發達に伴ひ精緻なる機器を低廉にて購ふことを得るに至りたると放送種目の充實、機械裝置の改善及放送技術の熟練等に依り聽取者漸次增加し現在に於ては三千七百八十名を算し尙益々增加の趨勢にして殊に內地との中繼放送を開始したる結果は益々衆望に副ひつつあり。

郵便爲替及郵便振替貯金は商取引の殷盛と內地送金の增加とに依り何れも增加しつつあり。

郵便貯金は昭和三年度末に於て預入人員二十六萬二千六百四十五人、貯金現在高一千八百九十五萬餘圓を示し同年度に於て二百五十八萬圓餘の增加を見たり。



遞信局

自動電話機

（昭和三年度末）

郵便局	四二
同出張所	九
郵便取扱所	一八
陸上無線電信局	一四九
同送信所	一
同受信所	一
船舶無線電信局	三
同取扱所	二一
電信取扱所	六
鐵道公衆電信取扱所	九〇
同分室	一
電話局	二
同分局	一
電話取扱所	二一
計	三六七

前掲局所の各業務取扱別

郵便を取扱ふもの	二一八
電信を取扱ふもの	一八五
電話交換を取扱ふもの	三一
電話通話を取扱ふもの	八二

（昭和三年）

	郵便	小包
引受	五七、五五九、四六一	三九〇、三〇〇
配達	六一、四九一、〇一〇	九三三、六六六

電信

發信	二、一八一、五七〇
著信	二、〇九七、二九八

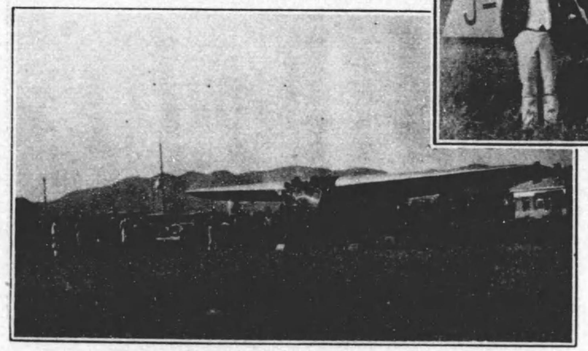
電話

加入者數	一六、四〇七
通話度數	一三九、七八八、二八六
郵便貯金	
預入人員	二六二、六四五人
貯金現在	一八、九五七、一九九圓
簡易生命保險成績	
契約現在	
件數	一三四、四〇八件
保險料	一一五、六七七圓
保險金	二四、八七一、八〇八圓
郵便年金	
契約申込受理件數累計	二、五一〇件
同年金額（年額）	三四三、八二一圓

2 航空

近時當廳管内に於ても民間航空事業の計畫を見るに至り内鮮滿連絡飛行の如きは既に試驗飛行を完了し近く定期航空を開始せんとするの計畫にして航空の安全を保障するには航空路設置を最も緊要なりとす殊に本邦は大正十一年國際航空條約に加盟せるを以て各締約國の航空機は何時にても本邦に飛來するの權利あり之が爲内地に於ける航空設備に對し朝鮮及當管内に於ても相當設備を爲し之に相伴はしむる必要あり管内に於ては當分の内陸軍飛行場（周水子）を使用することと爲したるに依り航空官一名を置き差向飛行に必要なる航空標識及信號機飛行禁止地帶標識竝有線電話の設備を爲せり日本航空株式會社は昭和四年四月一日より大連、平壤、京城及蔚山間に（毎週差立は月水金、到著は火木土）航空郵便の取扱を開始し九月より旅客の輸送を開始せり。

大連内地間航空輸送開始（一）



大連内地間航空輸送開始（二）

九海事

海務局を大連に、支局を旅順に置き港務、航路標識、檢疫、船舶檢査、測度、船員の公認及認證等海事全般の事務を處理せしむ。

州内に於ける良港は大連、旅順の二港にして他は船舶の出入に便ならず又船舶の自由出入を許すは大連、旅順の二港にして他は日本船舶にあらざる船舶は特許を受けたる場合の外出入し得ざることとせり。

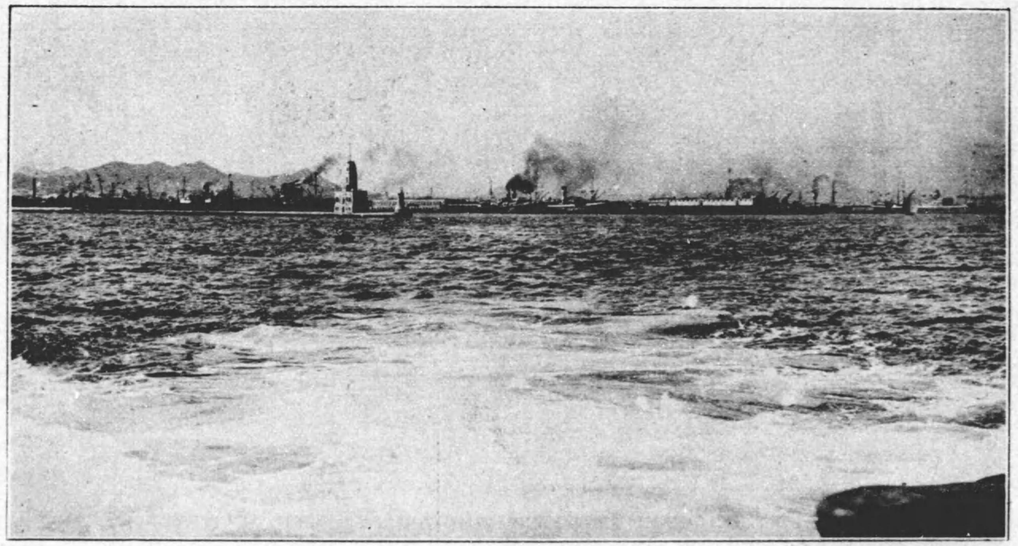
關東州置籍船は昭和三年末現在汽船百三十隻、帆船五十九隻計百八十九隻(總噸數三十五萬三千六百八十一噸餘)なり。

船舶職員及水先人の懲戒に付ては海務局内に懲戒委員會を置き關東長官の命令せる委員長以下委員に於て之が審理裁決を爲しつつあり。

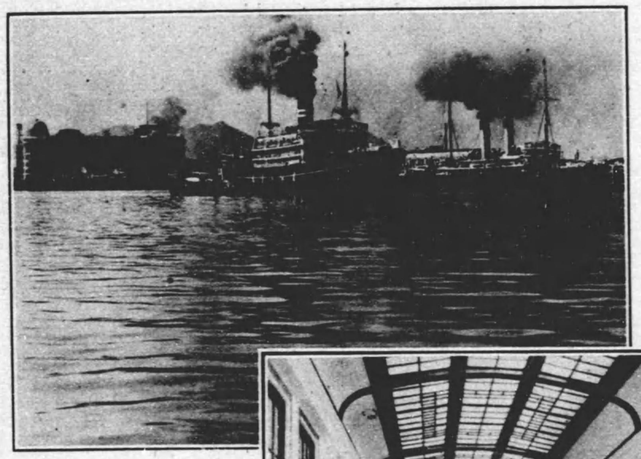
水先制度は大連、旅順共に强制水先制度にして大連港は水先規則を定め水先人を置くも旅順港は從來當廳職員をして水先業務を爲さしめつつありしが不便なるを以て本年七月限り之を改め大連及旅順共に試驗制度に依り採用したる停年制の民營水先人を置くこととせり。

大連及旅順の二港に入港せる最近三箇年間の船舶數左の如し。

年次		汽船 隻數	汽船 噸數	帆船 隻數	帆船 噸數
大連港	十五年	三七五九	九、三二〇四七	九九八	七六六三
	十二年	三九八四	九、五八九四五三	一〇三三	一一七六五五
	十三年	四三三六	一〇、五〇一四三九	九七一	一〇四四一四
旅順港	十五年	一四三	三、四四一三四	一三三	三六六九
	十二年	一七三	三、二〇三三八	一五三	一、六一〇
	十三年	一七八	三、六九八五五	八〇	三、〇六二



大連港



大連内地間定期船

大連埠頭待合所内部

大連西波止場

一〇 關稅

關稅制度

明治三十九年帝國が關東州の租借を繼承するや關稅制度を確立する必要を認め支那と商議し明治四十年五月大連海關設置及內水航行に關する協定を爲し關東州租借地全部を關稅自由區となすと共に租借地を通過して支那內地に出入する貨物に對する關稅徵收の爲大連に支那海關を設置することを承認したるものにして仍日本は海關の徵稅の外假規則を設くべきことを規定せり右協定に依り關東都督府は明治四十年六月關東州租借地稅關假規則を公布せり。

關東州に於ける支那關稅の取扱概要左の如し。

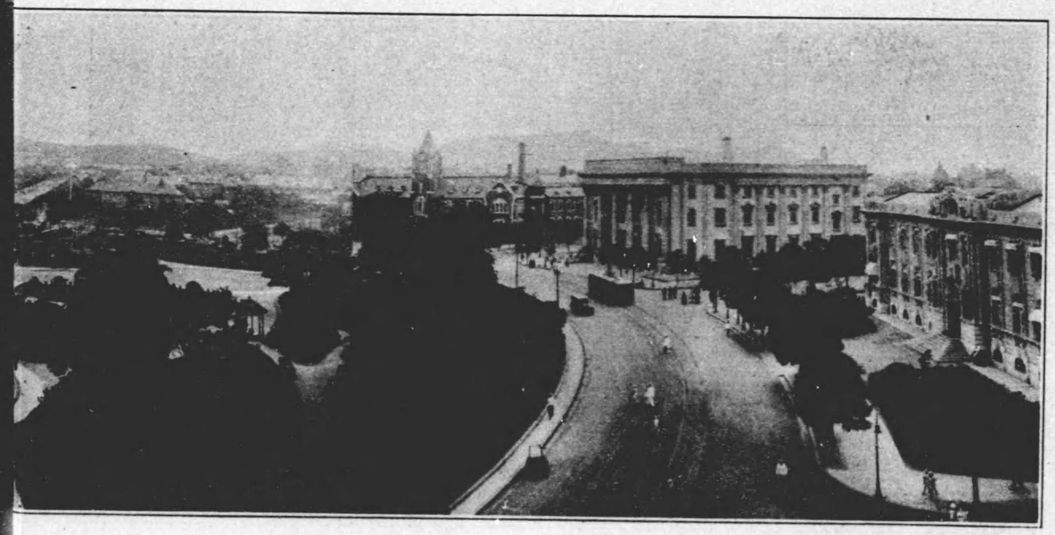
（一）海路大連に輸入し關東州內に於て消費する貨物には課稅せず

（二）陸路支那內地より移入し關東州內に於て消費する貨物には課稅せず

（三）關東州の生產物は之を以て若は外國より輸入したる原料を以て製造したる貨物を輸出するときは課稅せず

（四）海路大連に輸入し陸路關東州境界を越へ支那內地に移送する外國貨物には輸入稅を課す

（五）關東州內の生產物又は之を以て製造したる貨物を陸路支那內地に移送するときは輸入稅を課す



大連

（六）陸路支那內地より移入したる支那貨物を大連より輸出するときは輸出稅を課す

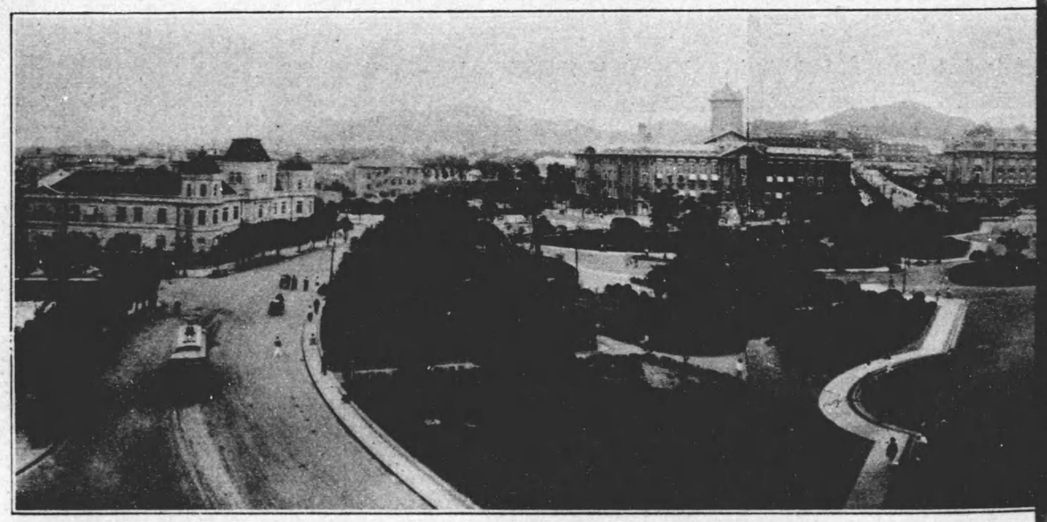
（七）陸路支那內地より移入したる原料を以て製造したる貨物を輸出するときは輸出者の選擇に依り原料又は製品に對し輸出稅を課す

（八）支那通商港より海路大連に輸入したる支那貨物を支那內地に移送するときは現行條約に從ひ課稅す

（九）陸路支那內地より移入したる貨物を支那通商港に輸出するときは輸出稅を課し到著港に於て沿岸貿易稅を課す

關東州生產品に對する日本內地輸入稅の減免

關東州生產品を日本に輸入する場合に於て日本の輸入稅を減免せるは明治三十九年九月勅令を以て關東州の生產に係る物品を輸入稅率は協定稅率に依る旨を公布せるに始まるも之に依り減免せらるるは二三品に過ぎず關東州の受くる利益は言ふに足らざるを以て大正十四年六月法律第五十一號を以て關東州生產品の特惠關稅を施行し主として關東州の主要生產品にして內地產業に影響薄きものの輸入稅を減免せり越へて昭和二年三月一部の改正をなし免稅品三十二種、減稅品二種をを定めたり。本年四月更に免稅品に綿織絲ガンニー袋等八品を又減稅品に生牛肉を追加せしめ關東州工業の發展に資する所尠からず。



大廣場

一　財　政

1　租稅其の他の歲入

租　稅

國費所屬の租稅は、地租、鹽稅、所得稅、取引所稅、酒稅、煙草稅の六種にして地方費所屬の租稅は營業稅、雜種稅（土地增加稅を含む）二種とす何れも民政署長又は民政支署長に於て之を賦課徵收す。

昭和三年度に於ける租稅賦課額は國稅地租二一六、四二四圓、鹽稅三三一、七六八圓、所得稅二、六五八、九一七圓、取引所營業稅九、四五一圓、取引稅八四、三二五圓、酒稅三九八、三〇三圓、煙草稅八五三、五二六圓、計四、五五二、七一七圓、地方費營業稅一、三三七、七一一圓、雜種稅五八八、二一七圓、計一、九二五、九二八圓なり。

昭和三年度租稅負擔狀況は人口一人當五圓一戶當三五圓となるも特殊の性質を有する滿鐵會社に對する所得稅を除外するときは人口一人當三圓戶數一戶當一八圓となる又人種別に區分すれば一人當日本人三六圓其の他は一圓、一戶當日本人一六〇圓其の他は八圓となるも滿鐵會社に對する所得稅を除外するときは一人當日本人一五圓其の他は一圓一戶當日本人六五圓其の他は六圓となり其の負擔何れも大ならず。

2　歲　計

關東廳の行政費は關東廳特別會計（國費）及關東州地方會計（地方費）より之を支辨す關東廳管內は施設を要するもの頗る多く未だ容易に歲計の均衡を得難き情況にあるを以て其の財源は公課に依るの外公債及一般會計よりの補充金に依れり。

昭和四年特別會計豫算

歲　入

租稅	三、八一〇、七四六圓
官業及官有財產收入	一〇、七三六、八五四
印紙收入	七八二、七三三
雜收入	五三五、〇六九
官有物拂下代	三九六、九四九
補充金	五、〇〇〇、〇〇〇
公債金	一、〇〇〇、〇〇〇
前年度剩餘金	一、八二九、三六六
計	二四、〇九一、七一七

歲　出

關東廳	一、七二四、三九六
法院及刑務所	五二一、七七五
警察費	四、一七〇、四三一
教育費	二、三七四、〇八八
勸業費	三三三、八一九
專賣局	一、三四七、四九三
遞信費	四、九六六、九九六
海務局	一六〇、一九〇
醫院	四八九、七八九
土地建物借料	一六一、一七〇
傳染病豫防費	三八、八二五
國債整理基金特別會計繰入	二二六、八三八
諸支出金	六三、二〇七
豫備費	三〇〇、〇〇〇
事業費	四、二四七、八一二
補助費	一、六二一、六五〇
土地審查委員會費	三、九四〇
臨時支那語奬勵費	一三、五〇〇
臨時警備費	二五六、三八九
國勢調査費	三、九九七

官有林野整理費	四七、七九五
租稅制度調査費	一七、六一七
金融組合貸付金	一、〇〇〇、〇〇〇
計	二四、〇九一、七一七

關東州地方費は關東長官の管理に屬し其の目的は官治行政事務以外に直接地方住民の福利增進に關する地方行政費卽ち會屯事務費、敎育及衞生施設費及勸業竝土木費等の地方的經費を支辨するものとす。

昭和四年度地方費豫算

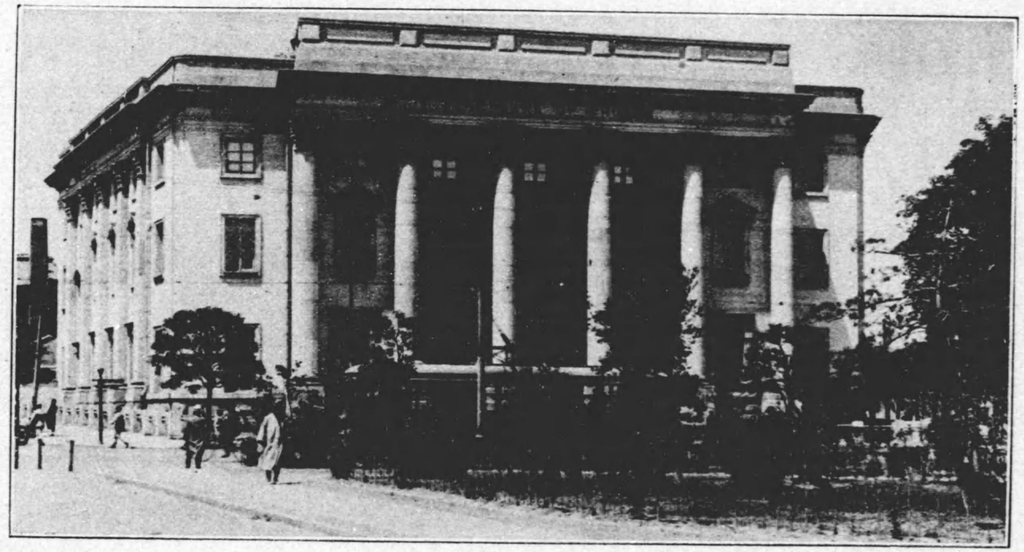
收　入

地方收入	三、七一三、〇四七圓
拂下代	三三、二九八
國庫補助金	一、〇〇〇、〇〇〇
寄附金	六、五〇〇
前年度剩餘金繰入	一、四三二、四三九
計	六、一八五、二八四

支　出

會屯事務費	四〇、三三七
敎育費	五一七、五八六
勸業費	三七、八六〇
衞生費	一〇七、一四五
營造物費	三三五、一五七
救育費	六五〇
消防費	一三〇、〇二五
作業費	一、〇七三、七三〇
土木維持費	三一〇、五〇二
地方費取扱費	一二四、六一〇
諸支出金	七、六一二
豫備費	一〇〇、〇〇〇
營繕土木費	一、七四八、五七一
補助費	一、五六四、一九六
調査費	八七、三〇三
計	六、一八五、二八四

正金銀行大連支店



朝鮮銀行大連支店

二 金融

1 銀行

特殊金融機關（昭和三年十二月末、金銀合計）

滿洲主要地に朝鮮銀行、横濱正金銀行及東洋拓殖株式會社の各支店あり此の内鮮銀支店は一般商業金融の中樞機關として預金四千五百萬圓貸出金五千三百萬圓を擁し正金支店は對外爲替金融機關として預金二千七百萬圓、貸出金二千五百圓を有し東拓支店は企業金融機關として四千四百萬圓の不動産擔保貸付を有し三者各其の機能を分てり。

普通銀行

邦人側普通銀行は管内に本店を有するもの十行、管外に本店を有し管内に支店を有するもの四行合計十四行にして其の主要勘定を掲ぐれば公稱資本金三千二百萬圓、拂込資本金千四百萬圓、預り金九千萬圓、貸出金一億千萬圓、借入金四千五百萬圓なり。

外國銀行

近時支那本部に於ける政情不安なる爲安全地帶たる大連及鐵道附屬地に支店を設けんとする支那側銀行頻出せり。現在大連に中國、交通、金城、東萊の四行あり鐵道沿線附屬地に在りては開原に交通、中國東三省官銀號、公主嶺に東三省官銀號、中國の二行あり奉天、范家屯、四平街及郭家店の各地に東三省官銀號あり尚目下支店出願中にて認可見込のもの奉天に中國、交通の二行あり其の他外國銀行として大連にホンコン・シャンハイ・バンキング・コーポレーション、ナショナル・シチイ・バンク・オブ・ニューヨーク、ザ・チヤータート・バンク・オブ・インデア・オーストラリヤ・アンド・チヤイナの三支店あり。

2 無盡會社

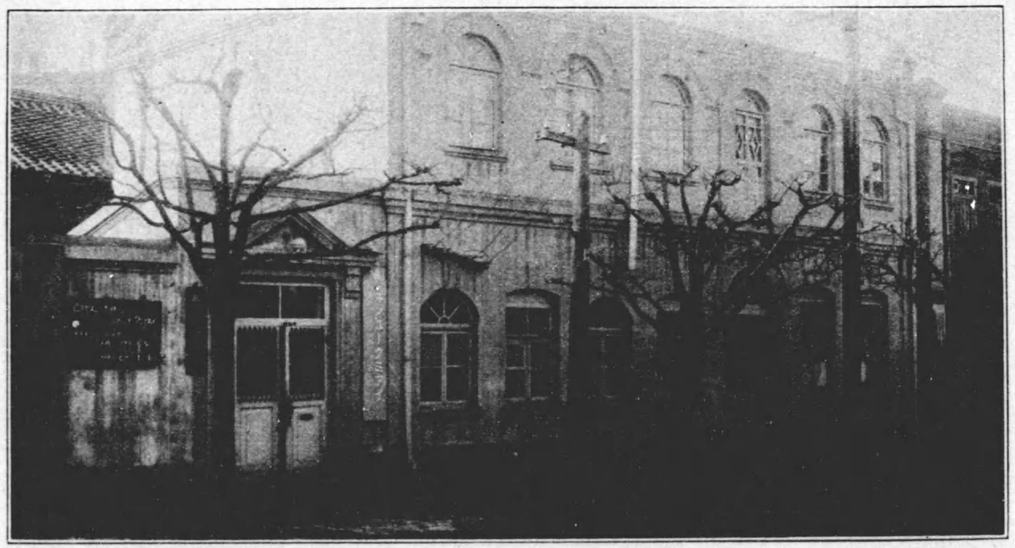
大正十五年無盡業令を發布し昭和二年七月一日より之を施行せり同令は其の骨子を內地の無盡業法に則り之に滿洲特殊の事情を斟酌したるものにして同令に依り營業免許を與へたる會社は第一無盡(大連)、蓬萊無盡(大連)、旅順無盡(旅順)共信無盡(本溪湖)、撫順無盡(撫順)、安東晝夜無盡(安東)、安信無盡(安東)、奉信無盡(奉天)の八會社にして其の給付契約高三百九十六萬八千百圓とす。

3 金融組合

近年銀行無盡會社等は其の貸付金の回收に努め中小商工業者に對する小口金融は硬塞の狀況なく依て當廳は從來の銀行無盡會社等の失敗に鑑み相互扶助を精神とせる金融組合の設立を企圖し昭和三年金融組合令制定と共に大連、沙河口、旅順、奉天の四箇所に設立し關東州地方費より助成資金を貸下げ又昭和四年度に於て金融組合施設費として本廳の補給金を增額し滿鐵沿線市街地瓦房店、大石橋、營口、遼陽、鞍山、開原、鐵嶺、四平街、公主嶺、長春及撫順各地に都市金融組合を設立せり。

右の外州內の農村に對し數年前より村落金融組合を設立せしめ現在五組合の設立を見其の成績良好にして大連、金州、普蘭店の三組合は既に獨立自營の域に達せり。

前記既設組合の組合員は昭和四年三月末日現在に於て都市金融組合は總計四六六名、村落組合は五、二九五名、又出資金は都市一五八、二五〇圓、村落七四、一七〇圓なり貸付額は都市八九、〇五一圓、村落金一八九、二〇〇圓、小洋四九九、六三四圓ありて三年度の純益は都市八、三八四圓、村落金二〇、一一八圓、小洋三三、〇九九圓あり組合員の出資金額は村落組合に在りては一口小洋錢十圓、都市組合に在りては一口金五十圓とす。



旅順金融組合

一三　度量衡、通貨

1　度　量　衡

滿洲に於ては日支露接壤せるを以て度量衡は頗る複雑し支那法、尺貫法、メートル法、ヤードポンド法、露國法等竝び行はる。特に支那人側は各地方毎に相異なれる度量衡器を使用せるを以て此等の狀況を簡單に說明することは容易の業にあらず。

關東州に在りては我內地の方針と同くメートル法を實施するが爲昭和二年五月廳令關東州度量衡取締規則を發布し八月一日より之を施行せり。卽ち度量はメートル、衡はキログラムを基本とす。但し直に一般に新法を行ひ難きを以て從來慣用せる尺貫法及ヤードポンド法は今後十五年間之を使用することを得せしめ、又支那度量衡器は支那人相互間の使用に對し特例（旅順大連二市は二年十一月末其の他の地域は昭和三月末日迄）を設けたり仍ほ二年八月權度所を大連に置き度量衡器檢定制度を實施せり。支那側に於ける度量衡の統一は急速に之を望むべからず。

左に滿洲に行はるる支那度量衡の大要を表示す。

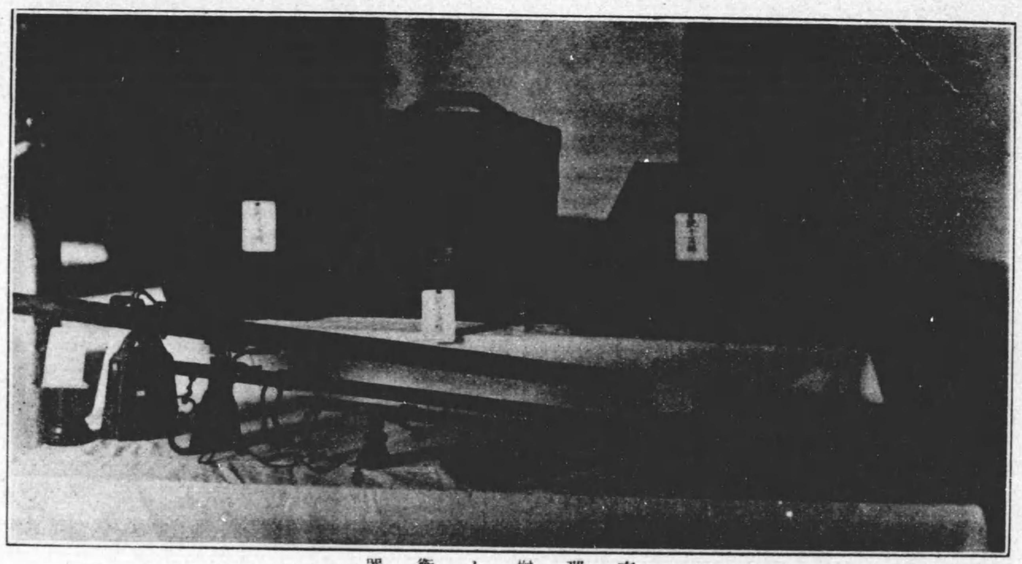
イ　度

長さ

裁尺（衣尺）	營造尺（蘇尺）	大尺（布尺）
日本 一尺・四三二	一尺・三四六	一尺・九〇五四

地積

稱呼	支那	日本面積
弓	五尺平方	七合四一
畝	二四〇弓	五畝二七歩八四
晌（天、日、丁）	一〇畝（旗地は六畝）	五反九畝八歩四（黑龍江省七反一畝四歩）
方（黑龍江省）	四五晌	三二町
井（同上）	三六方	一、四四〇町四反五畝



支那人と衡器

ロ　量

桝

官斗、倉斗、市斗等の別あり穀物斗量等一般に使用するは市斗にして其の一斗は約我一斗六升五合なり。

ハ　衡

稱呼	支那	日本目方に換算
擔（担）	百斤	十五貫二百匁
斤	十六兩	百五十二匁
兩	十錢	九匁五分
錢	十分	九分五厘
分	十厘	九厘五毛
厘	十毫	九毛五絲
毫	十	九

2　通　貨

滿洲の通貨は度量衡と同しく複雜にして各種の貨幣混用せらる。管內邦人側は朝鮮銀行の金券を主とし銀本位としては我橫濱正金銀行の銀券行はる。支那側貨幣は銀本位にして制錢、洋錢、銀錠の三系統に區分するを得べし。

制錢系は更に硬貨、紙幣に二分せらる。硬貨は制錢及銅元にして制錢は圓形有孔の銅錢我一厘錢に類似す銅元は銅宇兒とも稱し我一錢銅貨に酷似す。紙幣は官帖、銅元票に二分せらる。

洋錢系の硬貨は洋錢と稱し元を單位とす十分の一を角若は毛と稱す我銀貨幣に似たり紙幣は洋錢票（銀元票）、現大洋票（大洋錢本位の兌換紙幣）、奉天大洋票（帖子）に區分せらる此の內奉天大洋票は所謂奉天票にして東三省官銀號、交通、中國諸銀行より發行せられたる不換紙幣にして支那側滿洲通貨の代表たり。

銀錠系の通貨は元寶銀卽ち馬蹄銀にして一種の銀塊たり。地方に依り營平銀、瀋平銀、鎭平銀等の名あり紙幣は營口の過爐銀と稱するものにして帳簿上の振替勘定に依り貸借を決濟する一種の信用制度なり。

前記の各種通貨中我朝鮮銀行金券、橫濱正金銀行銀券及支那側の奉天票、大洋錢、小洋錢、現大洋票（哈爾賓）、官帖（吉林）、鎭平銀（安東）、過爐銀（營口）等は代表的のものとす。此の外海關兩と稱する關稅徵收上條約に依る假定的銀本位の貨幣あり。

關東州には金券の外、支那人側に小洋錢通用す。

滿洲に於ける貨幣の流通高は朝鮮銀行金券五千萬圓、正金銀行銀券五百萬圓、奉天票八億元等と稱せらる。

左に我金券と滿洲に於ける各種の通貨との換算價格を列記す此價格は昭和四年十二月三日（倫敦銀塊二二片二分一、米日爲替四八弗十六分十五）滿洲各地の相場にして常に變動するものとす。

朝鮮銀行金券		百圓	日本金 一〇〇・〇〇〇円
橫濱正金銀行券（鈔票）	（大連）	百元	八〇・三〇〇
奉天票（小洋票）	（奉天）	同	一・三六〇
奉天大洋票（現大洋票）	（奉天）	同	八一・五〇〇
大洋錢	（安東）	同	八〇・二五〇
小洋錢	（大連）	同	六九・七一〇
過爐銀	（營口）	百兩	三八・一三八
官帖	（長春）	百吊	四〇八
鎭平銀	（安東）	百兩	一一一・八〇〇
海關兩	（大連）	同	一三二・二五〇

（四年十月）

一四 教育及宗教

1 學校

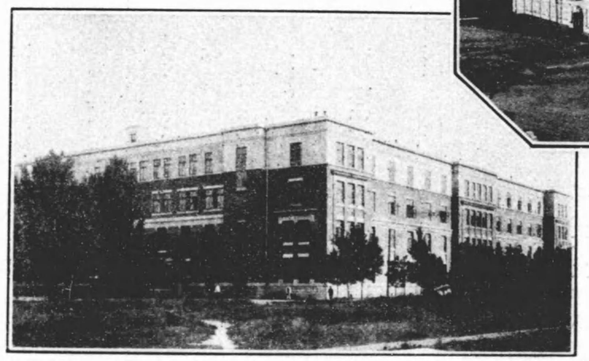
管內學校教育の制度及系統は日本人教育、支那人教育及日支人共學制の教育に分ち支那人教育を除く外の教育制度及系統は小學校より大學に至るまで內地の教育制度及系統に據ると雖滿洲特殊の事情に鑑み必要なる施設として小學校は四年以上、中學校は三年一學期迄女學校は三年迄昭和三年度より支那語を正科として課し更に小學校に於ては南滿洲教育會に於て編纂したる滿洲補充讀本、滿洲理科學習帖及滿洲唱歌集等を補助教科書として使用せり支那人教育の制度に付ては日本人教育の制度及系統と支那人の特別なる慣習及境遇を顧慮して適切なる制度を設く。

關東州內

小學校

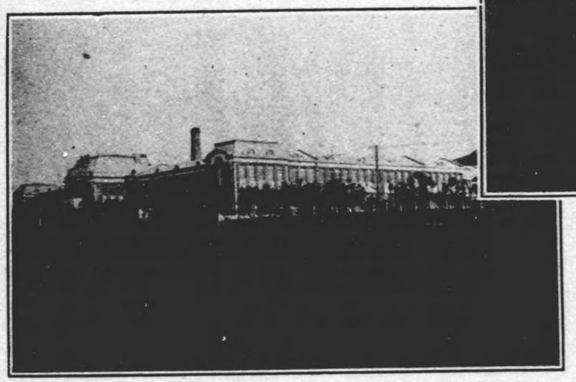
州內の日本人兒童に初等教育を施し現在學校數二〇、就學兒童數一三、五六八なり。

旅順工科大學



奉天醫科大學

旅順第一中學校



大連第二中學校

中學校及高等女學校

中學校は現在四校にして內一校は支那人のみを收容せり生徒數日本人二、二二四人、支那人一九五人、計二、四一九人なり高等女學校は廳立二校、大連市立一校にして生徒數二、一一二人なり女學校の卒業者にして尙進んで學業を修めんとする者竝に小學校教員養成の爲昭和四年度に於て旅順高等女學校に修業年一箇年の補習科を設置せり。

公學堂

支那人初等教育の機關にして州內樞要の地に之を設く現在校數九（外に師範學堂附屬一）就學兒童八、七六七人なり州內支那人の好學心は年と共に進み就學兒童數年々增加しつつあり。

普通學堂

普通學堂は公學堂と等しく州內支那人兒童の初等教育機關にして各會村をして之を設置せしむ現在校數一一〇、就學兒童二三、〇九七人なり就學兒童數漸增せるを以て當廳は各會をして其の收容に努めしめつつあるも會の經濟は之等教育費

の全部を負擔し能はざる事情なるを以て當廳は年々教員給與金の一部を補給しつつあり。

實業學堂

州内の實業教育機關は大連商業學堂、金州農業學堂及大連市立商工學校にして前二者は初等教育を了へたる支那人に對し實地的なる商業又は農業に關する實務的の知識技能を授くるを本旨とし後者は主として日本人子弟に對し商工業に關する實際上の知識技能を授く。

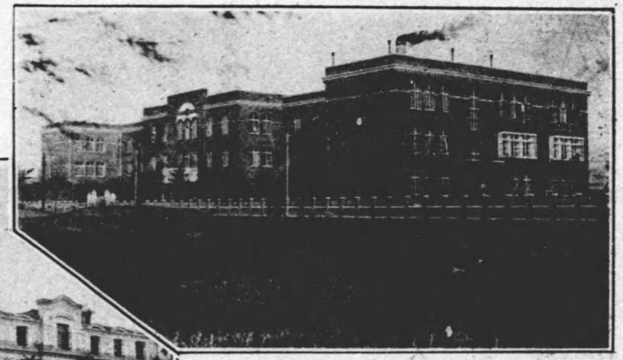
旅順師範學堂

本校は州内普通學堂の教員を養成する爲設置せるものなるも別に小學校及公學堂の訓導及教諭たるべき者に對し支那語支那事情其の他殖民地教育上必要なる教科の研究を爲さしむる爲附屬小學校教員養成部を附設せり。

工科大學

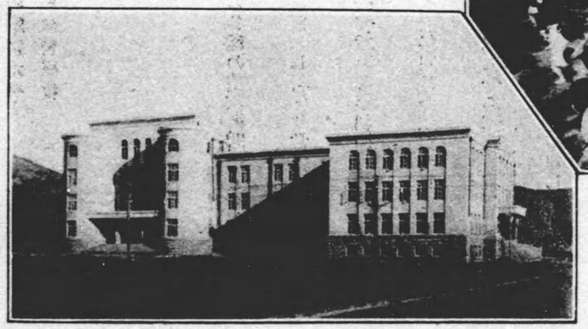
旅順工科大學は大正十二年四月より豫科を、同十五年四月より學部を開始し昭和三年度に於て完成せり其の内容は在來の大學講座制を採用せず專ら教室制とし學修すべき學科は全

旅順師範學堂



奉天中學校

大連神明高等女學校



大連早苗小學校

學科八十餘科目中より學生をして自由に之を選擇學習せしむるの制となせり。

私立學校

以上の外州内には各種の私立學校あり專門學校は專門學校令に依り其の他は關東州の私立學校規則に依りて當廳之を監督せり。

滿鐵附屬地

滿鐵附屬地の教育施設は政府の命令に基き滿鐵會社之を監督せり同社の經營せる學校左の如し。

在外指定學校	小學校	二六(附屬地のみ)
	中學校	四
	高等女學校	四
	商業學校	一
日本人教育	教育專門學校	一
	家政女學校	一三
支那人教育	公學堂及日語學校	一一
	中學堂	一
	商業學校	二
	農業學校	二
	鑛山學校	一

日支人教育（滿洲醫科大學　一
實業補習學校

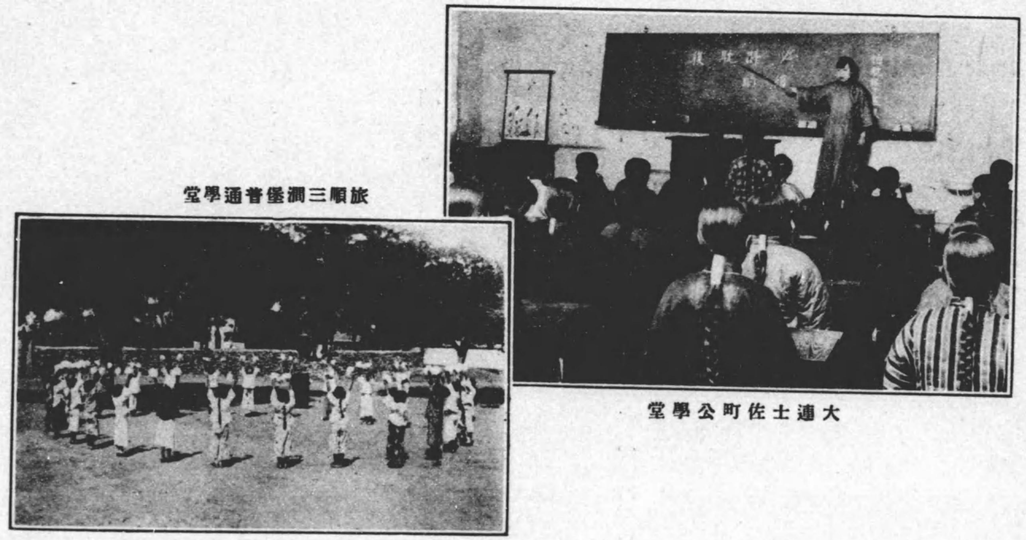
2 社會教育

社會教育及修養に關する各種の施設機關は近時著しく發達し各方面に亙り相當の成績を示し居れり當廳の直接經營せるは博物館、圖書館、體育研究所及青年訓練所の四とす。

博物館は旅順に在り大正七年四月の設立にして風俗、動物、植物、鑛物、考古、參考の六部に分ち滿蒙、支那本土竝日本內地より蒐集したる物品約八萬五千箇を陳列し又從來の公園（後樂園）を植物園として博物館に附屬せしめ滿蒙其の他の植物を移植し尙同館に動物園附設の要を認め隣接地約五千坪を相し目下建設中なり。

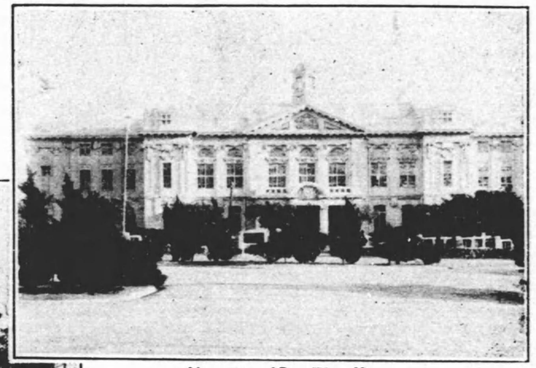
圖書館は元博物館內の圖書部を擴張して昭和二年四月之を附屬圖書館とし以て昭和四年四月之を獨立せしめ漸次內容の充實を圖れり所屬圖書二萬册とす。

圖書館の施設は主として滿鐵會社の經營に成る會社は大連及奉天に圖書館を設置し其の他鐵道沿線主要地に簡易圖書館を設けたり藏書二十餘萬、在滿人士を裨益する所大なり。



旅順三淵堡普通學堂

大連士佐町公學堂



旅順博物館

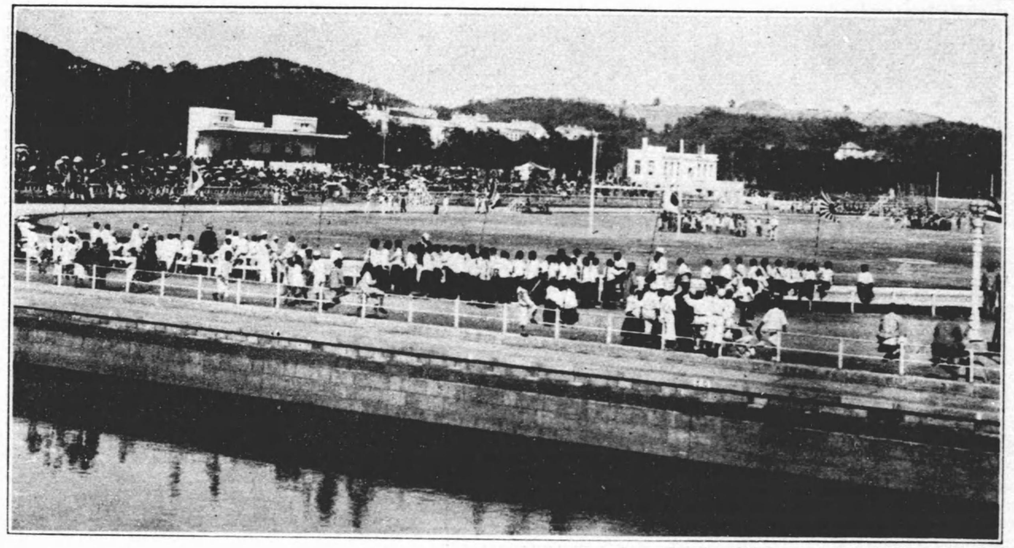
大連圖書館

體育研究所は昭和二年四月の新設にして一般運動體育の調査研究、指導をなすを目的とす吏員を置き事業の擴張を期し尙旅順運動場及大連體育練習場を管理す。

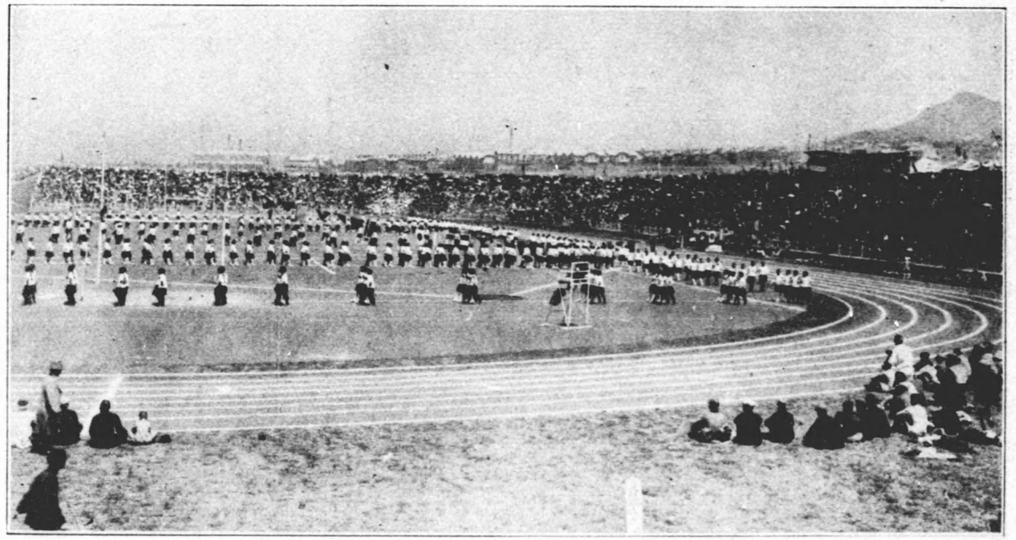
青年訓練所は昭和二年七月旅順一箇所、大連三箇所、計四箇所（生徒約四三〇名）を設立せり。更に滿鐵會社は大連、鞍山、遼陽、奉天、撫順、安東及長春の七箇所（生徒約五五〇名）を設立せり。

3 社寺、宗教

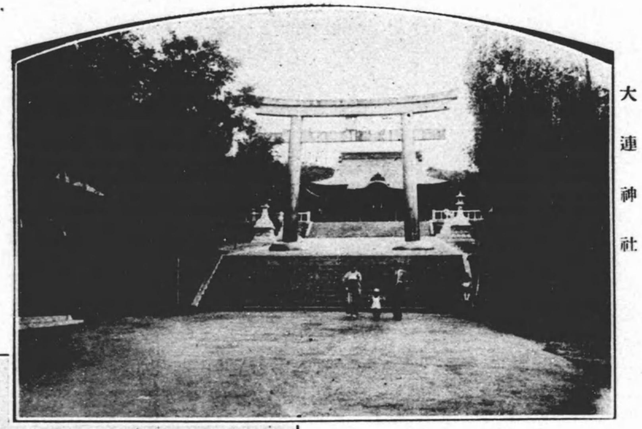
管內神社四十、寺院、教會、布教所等の宗教的機關は神道五十四、佛教百三、基督教四十、計百九十七箇所とす。宗教は內地に流布せるものは殆ど大部分傳播せられ各教共各地へ相當の教勢を示せり此の外支那人在來の宗教としては佛教、道教、回々教等到る所に寺院、廟宇を有せり。



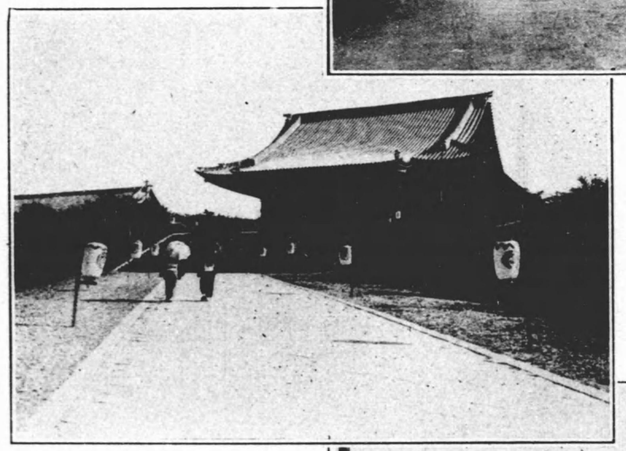
旅順運動場



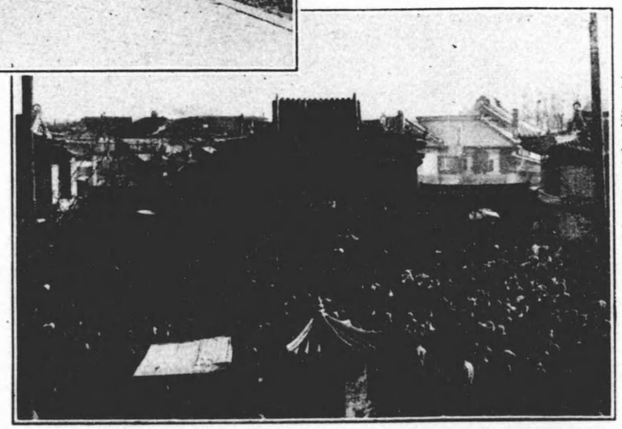
大連運動場



大連神社



大連西本願寺



大連天后宮

一五　警　察

關東州及州外鐵道附屬地の警察事務は關東廳の管掌する所にして警務局長は關東長官の命を承け管內の警察及衞生事務の執行に關し民政署長、民政支署長、警視、警部、警部補及巡査を指揮監督す。警察官署は州內に在りては民政署長、民政支署長及警察署長にして民政署長は管內の警察署長指揮の權を有す。警察署長は部內の警察及衞生の事務を掌理す又州外に在りては南滿洲に駐在する領事官をして關東廳事務官を兼ねしめ州外警察署長を監督せしむ。警察署長の職務は州內に於けると同じ警察官署は州內には旅順、大連、大連水上、大連小崗子、大連沙河口の五警察署及金州、普蘭店及鏇子窩の三民政支署を置き州外鐵道附屬地には瓦房店、大石橋、營口、鞍山、遼陽、奉天、撫順、本溪湖、鐵嶺、開原、四平街、公主嶺、長春及安東の十四警察署を置く。

以上の外鐵道附屬地に近接の牛莊、遼陽、奉天、鐵嶺、長春及安東の六領事館には關東廳警察官吏を兼任分屬せしめ領事館警察署及警察官吏派出(駐在)所に之を配置し領事館に屬する警察事務に當らしむ。

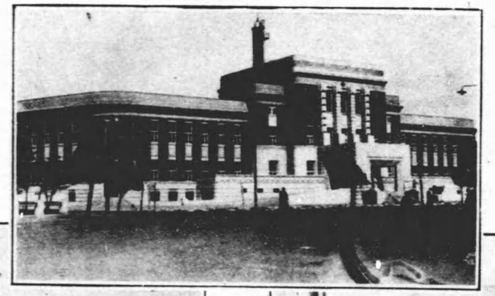
昭和四年度警察職員配置表

區分		警視	警部	警部補	翻譯生	技手	屬	巡査	巡査補	囑託	雇	計
州內			五	一二〇	五〇	七	七	一	七九四	二四四	二五	一二五九
州外		六	一九	六六	一四	一	四	一〇八六	三一六	二	七	一五五〇
計		二	二四九	二〇九六	三	八	四	二八八〇	六六〇	三六	二四	二八〇九

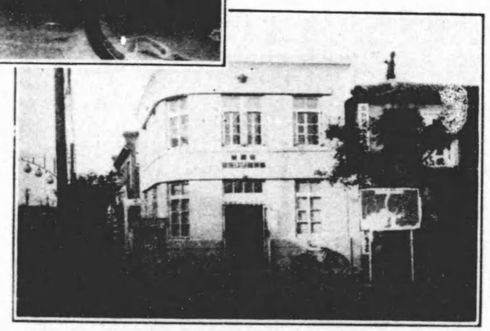
備考　左行數字は臨時警備費支辨及臨時增置の定員を示す。

管內人口の增加、思想勞働運動、隣邦の政變及國民運動の影響を受け警察事務年と共に繁劇を加へ管外は滿洲名物の匪賊隨所に橫行し管內の警備治安に及ぼす影響大なるものあり之れ當廳に於て或は警察官吏を增員し或は船車馬、電話、電鈴、銃器等警備上の施設を完備し警察力の普及充實に努むる必要ある所以なり。

奉天警察署



交通整理



旅順乃木町警察官吏派出所

一六　衞　生

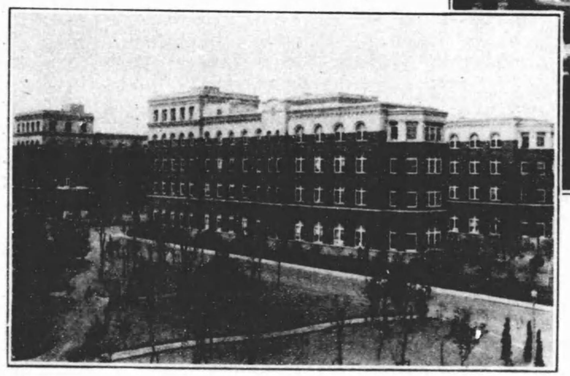
管內衞生行政にして警察行政に關するものは警察官署之を管掌し助長衞生事務に屬するものは州內に於ては市又は會、州外鐵道附屬地に在りては滿鐵會社之を實施す尙海港檢疫事務は關東廳海務局に於て之を管掌せり。

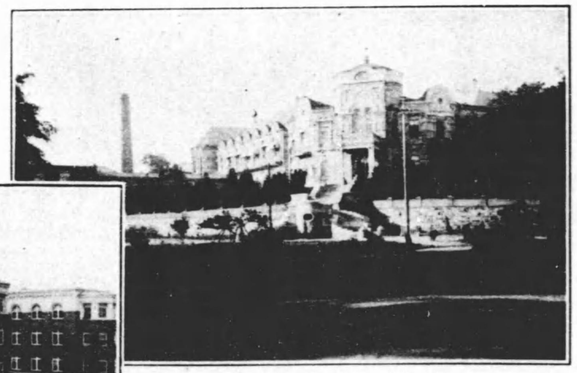
人畜傳染病の檢診、細菌學的試驗及藥品飲食物用器具その他理化學的衞生試驗事務は滿鐵衞生研究所、療病院、警察官署所屬の醫師、獸醫及藥劑師等をして之に當らしむ。

診療機關は州內には旅順市に關東廳醫院、大連市に財團法人大連醫院、同慈惠病院あり金州、普蘭店、鏇子窩市街地其の他村落樞要の地にして開業醫なき十三箇所に公醫を配置し公衆の診療に從事せしむる外貧民患者の施療、傳染病の豫防其の他一般衞生に關する事務を擔任せしむ。州外鐵道附屬地に在りては滿鐵會社に於て沿線主要各地に病院を設置し一般患者の診療に從事せしめつつあり又日本赤十字社滿洲委員本部に於ては奉天城內(管外)に醫院を設け其の他市街地には私立病院開業醫ありて診療機關は殆んど完備せり。

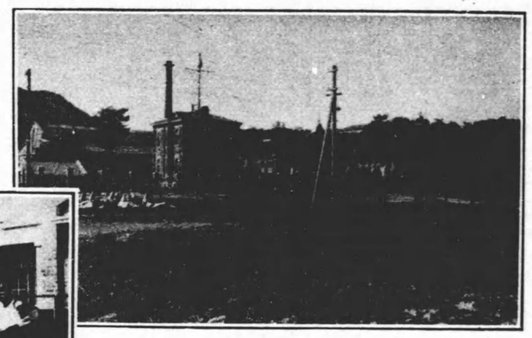
右の外傳染病患者の爲には療病院、特種婦女花柳病患者の爲には婦人醫院を設け何れも無料にて收容治療す。

大連醫院

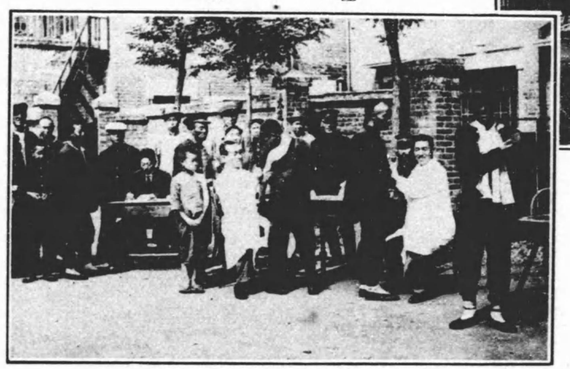




關東廳醫院



大連檢疫所



痘種

飲食物、飲食用器具、屠畜、乳肉、藥品、賣藥、墓地、火葬場、厨房下水溜、厠圊等の取締に關し夫々規定を設く。

阿片及其の他の麻醉劑の取締

支那人の阿片吸煙は積年の惡習にして其の弊風牢固として拔く可らず遽かに之を斷禁するは衞生上、人道上顧慮すべき點あるを以て從來漸禁主義を採り之が取締を爲せり大正十三年關東州阿片令を公布し阿片吸食阿片煙膏の製造賣買授受所有又は所持は何れも關東長官の許可を要し煙館の開設維持を禁じ且阿片を製造する目的を以て罌粟を栽培することを禁止せり而して同年八月癮者、小賣人、販賣人等に關し詳細なる規定を設け之が取締を爲し來れり然るに一九二五年壽府阿片條約に依り阿片の輸入及賣下は官に於て爲さざるべからざることとなりたるを以て昭和三年七月阿片令の一部を改正し之等の事務を取扱ふ爲め專賣局を設置し同時に癮者救療の目的の爲に救療所を開設したり。

阿片以外の麻醉劑に關しては最近國際間の重要問題となるに至りたるを以て昭和二年九月廳令を以て麻醉劑取締規則を公布しモルヒネ、コカインの鹽類又は誘導體若くは之等の藥品含有物其の他の麻藥類を一律に取締り其の輸出入は凡て許可制度と爲し不正取引に對する取締の徹底を期せり。

一七 商業

滿洲は急激なる發達をなしたる土地にして鐵道沿線には新式の商業組織を有し鐵道遠隔の地は今仍ほ舊態を維持せる所あり條約其の他に依り開放せられし市場左の如し。

（遼寧省）牛莊、安東、大東溝、奉天、遼陽、鳳凰城、新民屯、鐵嶺、通江口、法庫門

（吉林省）吉林、長春（附寬城子）、哈爾賓、寧古塔、三姓、綏芬河、龍井村、局子街、頭道溝、百草溝

（黑龍江省）齊々哈爾、海拉爾、瑷琿、滿洲里

商品は穀類其の他の原產品若は粗生產品を主とし特に大豆及其の加工品は世界的商品化し滿洲に於ける運輸、倉庫、金融其の他各種の經濟機關は之を中心として施設經營せらるる實狀なり其の他綿絲布、砂糖、煙草、石油等なり。

邦商は州內及鐵道沿線に於て商業に從事し該地域に於ける大規模の商業には比較的資力の大なる邦人の手に依るもの多きも個人經營の小商業は支那商常に優勢なり。

商工會議所

關東州及鐵道附屬地に於ける商工會議所は現在、大連、奉天、鐵嶺、長春、營口、安東の六箇所に在り內營口を除き他は何れも民法の規定に依る社團法人にして關東廳は此等の會議所に對し年々經費の一部を補助し其の實績見るべきものあり此の他商工會議所なき都市には實業會を設立し商工業の發達改善に寄與しつつあり。

華商公議會（商務會）

支那商人が其の必要上任意に設立するものにして法人格を有せず我商工會議所と略ぼ類似の機能を有せり從來關東廳は之に對し何等干涉を爲さざりしが近年華商の要求に依り州內に於ては所轄民政署長、鐵道附屬地に在りては滿鐵會社之を監督することとなれり現在各地に其の設立を見る。

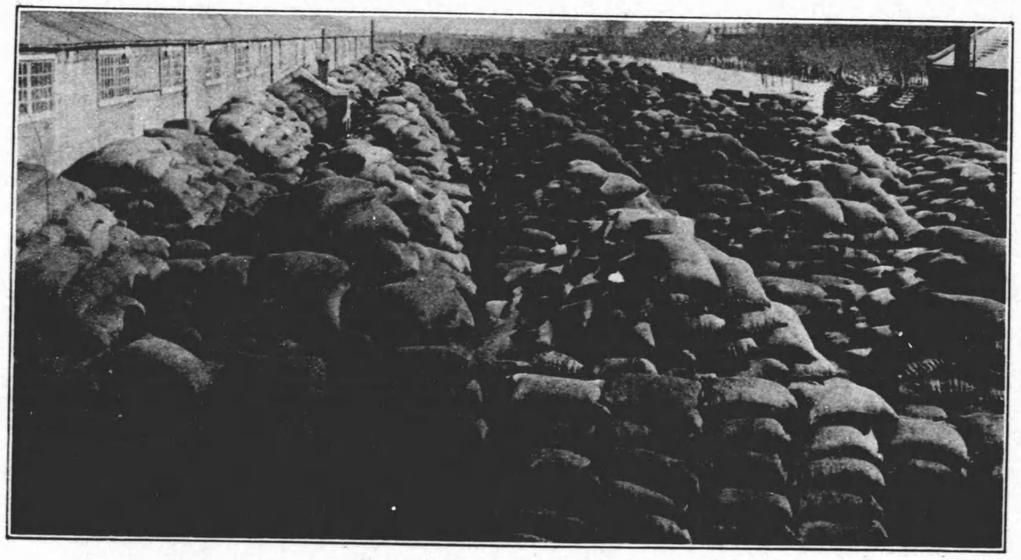
保險會社

現在關東州に於て事業を營むもの生命保險二十七（內日本會社二十六、外國會社一）損害保險四十四社（內日本會社二十九、外國會社十五）中關東州に本店を有するもの一にして他は凡て支社出張所代理店なり。

州內に於ける生命保險契約は現在約三千萬圓損害保險契約高約三億七千萬圓なり。

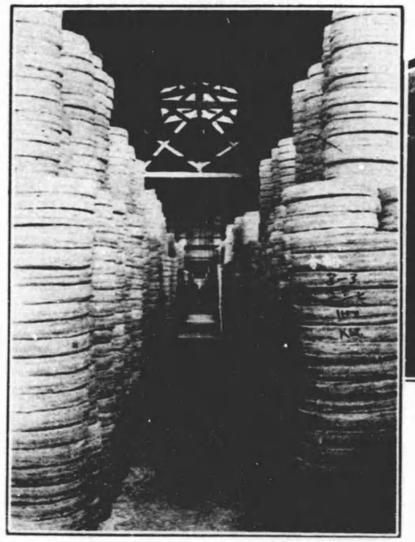
保險事業

種別		出張所又は代理店	收入保險料	支拂保險金	契約 人員	契約 金額	解約 人員	解約 金額	年末現在 人員	年末現在 金額
生命保險	日本會社	三	一二三一七八七	二八六三三五	四九九七	六九七八九九	四七五	四五八一七八	一四六九九	二八八一五八
	外國會社	一	四五九	一	一	一	一	一	七	一四〇〇
計		三	一二三一七八七	二八六三三五	四九九七	六九七八九九	四七五	四五八一七八	一四六九九	二八八一五八
損害保險	日本會社	二九	一二六四三四六	七六一四四	六七一三	四九七八九	四六三二	四六七四七三	一四七〇六	二六四九五一八
	外國會社	一五	一二四四四四	六〇五〇三	三九一四	八四一二四一五七三	三六四	四二五八八三	一四五五〇〇八	二六四九六七四
計		四四	二五七四四四	七六六四五	七〇一四	八四六九九三五四五	三六四	四二五八八三	一四五五〇〇八	二六四九六七四
其他保險	日本會社	三	一二四六五	七六〇	六〇一	三七五五〇〇	二九九	三六一〇〇	三三五四六	六六五
	外國會社	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計		三	一二四六五	七六〇	六〇一	三七五五〇〇	二九九	三六一〇〇	三三五四六	六六五



大豆の野積

倉庫内の豆粕



糧穀の棧積

一八　貿易

南滿三港貿易（大連、安東、營口）

南滿港貿易は滿洲に於ける產業竝文化の發達に伴ひ年々發展し二十年前に比し二十倍に增加せり最近五箇年間の南滿貿易額左の如し。（單位海關兩）

年次	輸入額	輸出額	計	輸出超過額
大正十三年	一八二、三六九、七一四	二三、四四〇、六九三	三九、五七七、六〇九	三、二二三、七六五
同　十四年	二三四、六七二、〇九一	二五九、七三二、六六四	四八四、三九六、七三五	二五、〇四五、七一七
昭和元年	二四八、三四三、三九一	二九九、四六、六三七	五四七、三八九、九七八	五〇、七〇三、二八六
同　二年	二三八、〇五二、〇五五	三三七、六四八、三三	五七五、六八七、〇八八	八九、五五、六九六
同　三年	二六六、三八二、八九一	三四八、〇三六、八八四	六一四、四一八、七一三	八一、六五五、〇五五

昭和三年度の貿易額を邦貨に換算すれば、九億七千餘萬圓（換算率一圓五八〇）なり輸入品は綿織物、綿織絲、鐵及鋼、麻袋を主要とし輸出品の大宗は滿洲の特產物たる穀類殊に大豆、豆粕、石炭、粟、豆油にして其の輸出額の增加に依り年々輸出超過を示せり。

貿易額を港別に見るときは大連港最も優勢にして昭和三年度貿易額の百分比は大連港七〇パーセント、安東一六パーセント、營口一四パーセントなり尙安東は鐵道貿易八〇パーセント海路二〇パーセントの割合なり。

滿洲の國別貿易は對日貿易主位を占む、昭和三年度の貿易は對日本（朝鮮臺灣を含む）輸入一億九百萬兩、輸出一億二千三百萬兩、合計二億三千二百萬兩（南滿三港總貿易額の三八パーセント）に達し出超一千四百萬兩なり次は對支沿岸貿易にして貿易額一億九千四百萬兩（出超二千萬兩）、對米二千六百萬兩（入超千二百萬兩）及英國、香港、土耳古（波斯、埃及等）和蘭、獨逸等之に次ぐ。

大連港貿易

昭和三年度大連港貿易額は輸入一億六千八百萬兩、輸出一億九千七百萬兩、合計三億六千五百萬兩にして二千九百萬兩の輸出超過を示し前年度に比し一千一百萬兩の減少を示せり國別貿易は對日本（朝鮮、臺灣を含む）輸入七千三百萬兩、輸出八千三百萬兩、計一億五千六百萬兩にして一千萬兩の出超を示し（對內地出超四百萬兩、對臺灣出超五百萬餘兩）昭和二年度貿易額に比し一千五百萬兩の增加なり。次は對支沿岸貿易にして一億七百萬兩、其の他對英二千五百萬兩、對米一千七百萬兩、對香港一千七百萬兩の順位にあり。

大連海關の關稅收入

昭和三年度に於ける大連海關の關稅收入額は八百四十一萬一千六百二十一兩にして前年度に比し一百二十七萬七千八百九十六兩の增加なり左の如し。

輸入稅	三、六三八、五二九	海關兩
輸出稅	四、六二六、〇七五	海關兩
沿岸貿易稅	八三、八四一	海關兩
順通過稅	一八、〇九五	海關兩
附加稅	五五、〇八一	海關兩
計	八、四一一、六二一	海關兩

一九　取引所

管內取引所は官營及民營の二あり。

官營取引所は關東長官之を管理し所長、主事、書記等の職員を置き所務を處理せしめ又商議員會を設け所長及商議員を以て之を組織す商議員は商工業に關し相當の經驗若は學識を有する者の內より關東長官之を任命し其の職務は取引人の免許、賣買取引の方法及其の履行等苟も取引上重要と認むべき事項に付之が審議評決を爲さしめ以て取引の實情に適應せしむるの方針を採れり又取引所は其の組織官營なるが爲先物取引の擔保を爲すに困難なる事情あるを以て別に取引擔保會社の隸屬を特許し之に取引の擔保及淸算事務等を擔當せしむ。

官營取引所及取引擔保會社左の如し。（資本金單位千圓）

取引所名	設立年月日	取引擔保會社名	公稱資本	拂込資本
大連取引所	大正二三、二、五	大連取引所信託株式會社	五、〇〇〇	六、〇〇〇
開原取引所	同　五、二、八	同　鈔信託株式會社	五、〇〇〇	一、二五〇
長春取引所	同　五、三、二八	開原取引所信託株式會社	二、〇〇〇	八五〇
公主嶺取引所	同　八、八、二八	長春取引所信託株式會社	一、〇〇〇	二五〇
四平街取引所	同　八、八、二八	公主嶺取引所信託株式會社	五〇〇	二五〇
奉天取引所	同　八、四、一	四平街取引所信託株式會社	五〇〇	二五〇
	同　九、一、二五	奉天取引所信託株式會社	五〇〇	五〇〇

大連取引所

大連取引所内部

備考　取引人は所長之を免許す取引人を分て重要物産取引人及錢鈔取引人の二種とし地方の狀況に依り現物取引のみを爲す取引人を置く。

民營取引所

民營取引所は株式會社組織にして大連株式商品取引所及安東取引所の二とす。大連株式商品取引所（公稱資本一千萬圓、拂込資本二百五十萬圓）は關東州取引所令及同規則に依り大正九年二月其の設立を免許し安東取引所（公稱資本二百五十萬圓、拂込資本六十二萬五千圓）は大正九年二月の設立に係り在安東領事の免許したるものにして大正十二年十月行政移管の結果關東廳の所管に屬せり取引所の役員は定款の定むる所に依り理事長一名、理事八名、監査役五名以内とし其の所の株式百株以上を有する株主中より二箇年の任期を以て之を選擧し關東長官の認可を受くるものとす。

取引高

（一）重要物産

所名	大豆 出來高	大豆 價額	粟 出來高	粟 價額
大連取引所	五二二八五	一五六二五〇	三六〇〇五	六〇三六〇
開原取引所	一六七一一〇七	一一七四一一七	一四〇一三	六六七三五
長春取引所	一一四三四〇	三三九九	八〇〇五	九九九一
公主嶺取引所	四三七〇六	一四〇八八〇九	五一一五八	一九一二五四
四平街取引所	一四七一九	一四〇三四七七	六〇	三四五三
計	二七九二六一	一五八二三三五三	六三二五一	八六〇四六三

所名	豆粕 出來高	豆粕 價額	豆油 出來高	豆油 價額
大連取引所	三一八七〇	四五六六六	三一四一〇	三一三五三
開原取引所	—	—	—	—
長春取引所	—	—	—	—
公主嶺取引所	—	—	—	—
四平街取引所	—	—	—	—
計	三一八七〇	四五六六六	三一四一〇	三一三五三

備考　單位（出來高、大豆及高粱一車、豆粕千枚、豆油百瓶　價額、千圓）（〇印銀票其の他奉票）

（二）錢鈔

所名	銀票 出來高	銀票 價額	金票 出來高	金票 價額
大連取引所	一一〇八五七五〇	〇一〇九一七九九	—	—
開原取引所	一一七三	四三一三五	一一七四三	三三五四三三八
長春取引所	二三二二一	△四五五一四六七巻	—	—
公主嶺取引所	三六五三	九六一六五	三一	六九八
四平街取引所	二	一〇	一三〇五九	三七七一九五
奉天取引所	—	—	一三一三三七六	三一九一四四〇六
計	一三三三五五	△〇四五五一七六七巻	一三四三一八九	三五六四六七五八
		三九五一三		

備考　單位（出來高、價額千圓　〇印銀票、△印官帖其の他奉票）

大連株式商品取引所

	定期取引 出來高	定期取引 價額	延取引 出來高	延取引 價額	現物取引 出來高	現物取引 價額	計 出來高	計 價額
株式	四七六一五六〇	一三二八七	—	—	三三二一九〇	九三三五五	七八九一八五〇	二二七三三
麻袋	—	—	二九一六八八	一三七一九	二六〇二八八	一〇九八七	五五一六八六	三七五六六
綿布	—	—	一一二八〇	三三四	一四四〇	三三七	二七五〇	一七一
綿糸	—	—	四〇一五	九三三	四五一〇	一〇八七	八五三五	二〇二〇
麥粉	—	—	二五五二	八六八	一九一三	五九六	四四七五	一四六四

備考　單位（出來高　株式枚、粟車、鎖平銀千兩　價額　千圓）

	株式 出來高	株式 價額	粟 出來高	粟 價額	鎖平銀 出來高	鎖平銀 價額
定期取引	一六四五〇	一五六	一九六〇	二二九六	一五一〇二	—
現物取引	—	—	—	—	—	—
計	一六四五〇	一五六	一九六〇	二二九六	一五一〇二	—

安東取引所

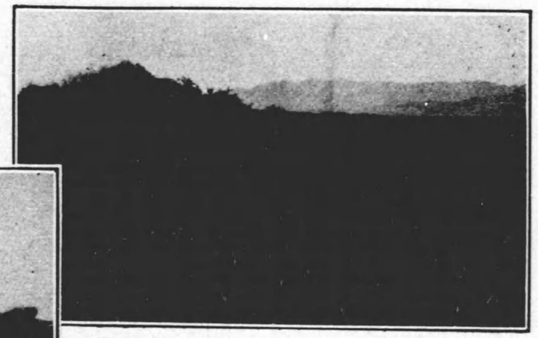
備考　單位（出來高　株式枚、麻袋千枚、綿糸布梱　綿布俵、麥粉百袋、價額千圓）

二〇　農　業

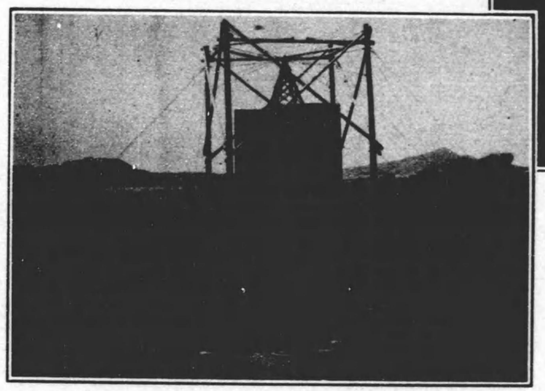
滿洲に於ける天然資源の開發は唯一の滿洲繁榮策なるを以

大豆畑

高粱



田　水



愛川村に於ける揚水用風車

て日本は二十餘年來極力其の促進に努力し來れり管内に於ける主要農作物たる玉蜀黍、高粱等の品種改良を爲し次で落花生、棉花、果樹等有利作物を勧奨し又蠶業の普及、畜産の改良を計れり。滿鐵會社は豚特に綿羊の改良に努力せり。

滿洲の農作物たる大豆及高粱は其の産額大にして重要なる貿易品なるも管内に於ては常食物たる玉蜀黍の耕作を主とす

滿洲に於ける農作地は千三百萬町歩、未墾地千二百萬町歩と稱せらる。日本内地の六百餘萬町歩に比し其の大なるを知るべし。收穫高は粟二千八百萬石、大豆三千七百萬石、高粱三千六百萬石、玉蜀黍千三百萬石、小麥一千百萬石、其の他二千百萬石、合計一億四千六百萬石と概算せらる(昭和三年)又前記收量中其の消費量は食料五千九百萬石、飼料其の他二千萬石、種子料七百萬石、合計八千六百萬石にして差引輸出能力は六千萬石に達するものと推定せらる。

管内收穫物

穀菽

(昭和三年)

種目	州内 作付反別	州内 收穫高	州外(沿線附屬地) 作付反別	州外(沿線附屬地) 收穫高
	町	石	町	石
包米(玉蜀黍)	八二、九六〇	八四、二六二	三三、〇	一九、九六
高粱	三一四、八四四	三一四、二四二	一二、九、九	一四、八二三
粟	一六、二四六、四四	一二、八六、〇七	五六、八一	六五、三
糜子	四、二四五、一	三、九七、二八	二、八、二	三、〇二
稗子	六、九六、五	六、三〇、七	一、四、九	一、三九
大麥	三、二六、六	一、九四、二	二、五	一、七
小麥	一四、四六、三	六、五五、五	一、七、一	一、三
蕎麥	七、四六、〇	五、一〇〇	七、一	五、九
黄豆	一八、三三、八	一二、四七、一	九、三、一	九、二五、七
綠豆	九、一六、八七	四七、六四、九	七、〇	七、六
黑豆	一、一〇七、六	九、六五、五	一、一	一、四五
小豆	七、二、四	六、九、七	三、四	一、三
落花生	三四、三六、一	一〇四、二、四	六、二	二、〇九
水稻	五五、六、一	八、〇七、七	一、四、八、六	三、〇四、六
陸稻	二、五六、三	二、五六、八	五、七、四	八、八、八
其の他	三、〇、九	四、二、六、八	一、四	四
計	一、九、二四、八、二	二四、三、六、三	四、二、五、六、三	六五、六五、八

蔬菜

(昭和三年)

種目	州内 作付反別	州内 收穫高	州外(沿線附屬地) 作付反別	州外(沿線附屬地) 收穫高
	町	石	町	石
蘿蔔	一三四、六、二	一七、五七三、二六	六、〇	一七、五、〇三四
葱	六、三、八	三、八四九、六七〇	三、九	七五、六六、六六
茄子	二、六、〇	一、五六、八、三五	二、〇	三、四六、〇〇
牛蒡	一、〇、三	二、四五、三	一、〇、九	九、二六五
白菜	一、二九、一	一、六二、九六七	五、〇、九	一、九、四六七
韮菜	一、四、〇、三	一、九四、六七六	〇、三	一、三、八一
蒜頭	八、八、〇	三七、三〇九	〇、七	八、〇
胡瓜	三、三、一	二四、九、一七、一	七、一	三、六、三
甜瓜	二、三、一、三	二、九、九、六、九八	一、〇、一	三、三、二四四
西瓜	四、七、九	五、九〇、〇二	四、九	五、八、三五五
南瓜	四、五五	四、五五、三〇九	四、一	五、一四、六三
甘藷	一、三、五、六、六	一、三、八、五四、七〇五	四、四	八、三、〇〇
馬鈴薯	三四、〇、三	三、九、五、六、八四、三	三、〇、六	三、九、三、〇二
其の他	四、八、六、五	三、九、九、三、五、六六	七、六	七四、六、八、七
計	六、二、八、一、五	六、七、七、九四、六、三、九	二、六、一、五	五、六、八、五、七

特用作物

(昭和三年)

種別	州内 作付面積	州内 收穫高	州外 作付面積	州外 收穫高
	町	斤	町	斤
棉花	一五、六五	六、九、八	六	一、六、六
苞麻子	三、〇	二、六四、〇三	三、〇	一、六、四、〇三
葫麻	三、七	三、八、五、〇六	二、	三、九、〇六
類麻	九、五	六、五、九、八	一、	九、六
其の他	八四	二、〇、〇、五	九、	四、一〇
計	一、八二	八、〇、六、九、九〇	一四四	三、四、六、八、三
	二四	三、七、三、三五	六	三、七、九、七七
	一、九、三五	一、二、九、三、三五	二、二四	一、二、九、三、三五

果實

種別	州内 作付面積(町) 滿鐵附屬地	州内 作付面積(町) 計	州内 收穫高(斤) 滿鐵附屬地	州内 收穫高(斤) 計
苹果	三、三九	三、三五、九	二、三五、〇	三、三五、九、三六四、〇、八五、二
梨	二六五	二六五	一、八、五、〇六、八五、四、三五、九、七	一、八、五、〇六、八五、四、三五、九、七
桃	四八	四八	九六、一五四、九	九六、一五四、九
櫻桃	二、六	二、三、八	八四、五四四	八四、五四四
葡萄	八四	八四	九、二四、三、二	九、二四、三、二
其の他	二	二	八、〇、八	八、〇、八
計	三、九、〇	四、〇、三	二、三、二、八、六	二、三、二、八、六
	四九	四九	一、七、二	一、七、二
	一、八、九、〇、七、九、六、六	一、八、九、〇、七、九、六、六	三、九、〇、六、六、九、五五、四、三、六	三、九、〇、六、六、九、五五、四、三、六

林　檎

蠶　養

蠶　業

家　蠶　關東州は氣候風土養蠶に適すること多年研究の結果判明したるを以て之を奬勵しつつあり昭和二年の桑園面積は四百二町歩、養蠶戸數一千七十二戸、蠶種掃立枚數二千四百三十一枚、收繭量六千三百九十貫を算するに至りたるが此の内三分の二以上は邦人農家八十餘戸の生産に係るものなり昭和三年度に於ては掃立枚數三千四百六十六枚、收繭七千六百貫匁に達したり。

滿洲蠶絲株式會社製絲工場に於て現在百二十釜を据付け不足原料は日本内地及朝鮮産繭を使用しつつあるが州内産繭の増額に伴ひ漸次釜數を増加し五百釜に達せしむる豫定なり。

野　蠶　關東州内に於て飼育する野蠶に天蠶、柞蠶の二種あり天蠶は大正五年の頃邦人に依り長野縣より原種を輸入したるを嚆矢とす柞蠶は普蘭店、貔子窩民政支署管内山地に飼育するものあるも柞樹林の樹齢均一なるもの尠く從て一定面積に同量の蠶兒を放蠶し難き缺點あり。

關東州蠶業試驗場に於て大正六年以來野蠶の試育を爲し改良種の配布を行ふと共に蠶場造成の指導を爲しつつあるを以て野蠶飼育漸く擡頭し蒿柳を以て天、柞蠶飼育をなすもの増加しつつあり。

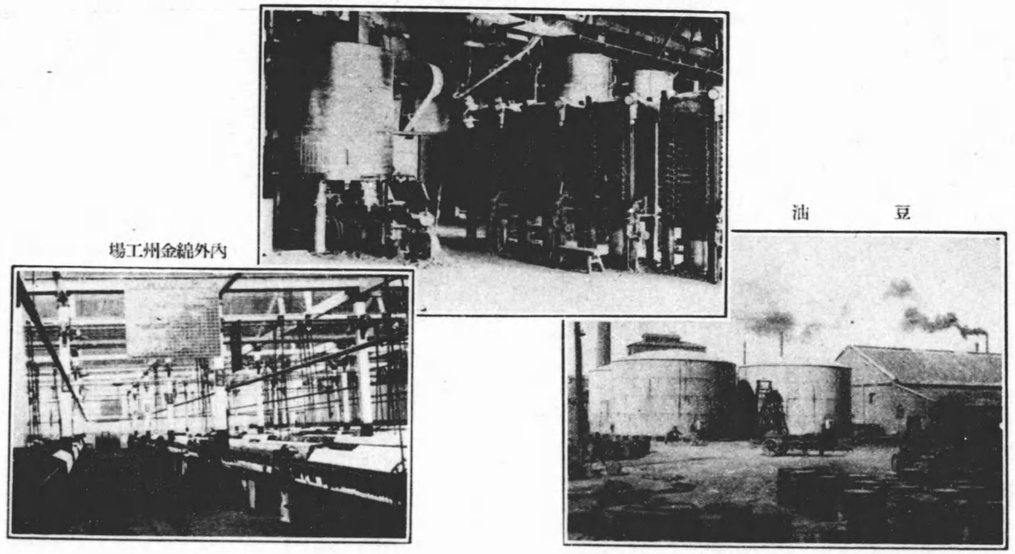
滿洲蠶絲會社貔子窩養蠶場に於ては五十町歩の蒿柳園を設け天蠶の飼育を爲しその成績逐年良好なり。

蠶　業

區分	州内	州外附屬地	計
桑園反別	四四六・七町	三・三町	四四九・〇町
家蠶 春蠶 飼養戸數	七三二戸	二戸	七三四戸
家蠶 春蠶 收繭高	三六七・七石	二三・三石	三八〇・〇石
家蠶 秋蠶 飼養戸數	三六二戸	一八戸	三七九戸
家蠶 秋蠶 收繭高	三一・〇石	三四・〇〇石	三六五・〇〇石
野蠶 飼養戸數	一九五一四四戸	一戸	一九五二四四戸
野蠶 收繭高	三〇〇〇〇〇貫		三〇〇〇〇〇貫

二　林　業

關東州は九萬四千町歩の林野を有するも森林として見るべきものなかりしが施政以來鋭意殖林に努め三官設苗圃と三十



四の地方苗圃を設置し官行造林の實施と共に公私有の造林を奬勵せし結果今や官行造林八千八百町歩、公私有林六萬町歩に達し官行造林の爲には十箇所の山林監視所を設置し公私有林の爲には森林保護組合の設置、害蟲驅除奬勵等夫々補助奬勵の方策を採ると共に未栽地に對しては一層促成の方法を講じ向後數年を期し官行造林一萬三千町歩、公私有林八萬町歩を完成せんとするものなり。

三　工　業

滿洲は農産、畜産、林産、鑛産等の天然資源に富み且つ燃料、勞力共に低廉豐富にして工業發展の要素を具備せり然るに從來は搾油、製粉、酒造の外見るべきものなかりしが近年鐵道沿線の發展に伴ひ鐵工、皮革、纖維、煉瓦、煙草等の諸工業勃興せり、工業の主要なるものは油房、製粉、銑鐵、紡績、精米、製材等とす滿洲の代表的工業たる油房業が近年硫安肥料の飛躍に依る豆粕の需要減に禍せられ頓挫の姿に在るは大に苦痛とする所なり。

管内工場

（昭和三年）

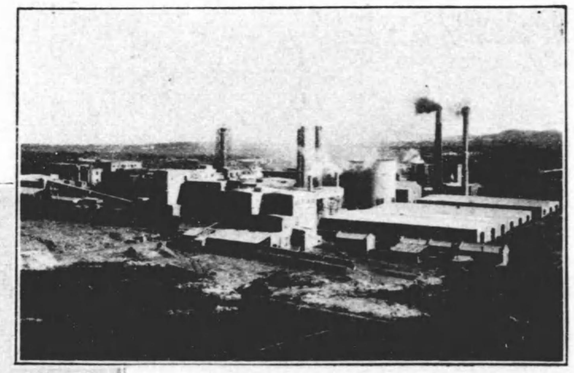
種別	工場數	職工延人員	資本金
紡績工場	六六	二六六七三人	六四一〇八一一〇〇円
金屬工場	一四	一八四六六一〇	三三一四三三六六八
機械及器具工場	六五	一七一一六七一	一八〇七七六八一
化學工場	三六	三一九三一四七七	七七三一〇一三五
飲食物工場	一八三	一三六九一四五	八三一〇〇三一四三
雜工場	一四四	一六五〇一七七	一〇三〇八四〇〇
特別工場	一二五	五六五一五六	四八四四七一九二
計	八八五	三三九四一三五五	三三一四七七一九

管内工業製品

（昭和三年）

種目	數量	價額
綿糸		六九六八六七七円
織物		三一三六〇四四
麻袋	七一二九三六八枚	二三三四一三六五
銑鐵	二一〇八一六六噸	九八五六一七七七
煉鐵		一五一八六四七
瓦	一〇一〇六六四一〇箇	三七八一五五五
セメント	一七七一九六〇噸	二二九八一五三五
玻璃		

大連醬油會社



小野田セメント會社（周水子）

豆油	一五一六瓩三五七斤	二四〇一〇七七五五
豆粕	二五三三一瓩三五斤	五〇二二六〇〇〇
藥品		一四八九一四四
塗料		一二五二〇四四
人造肥料		三二九三二六三一
紙		一九一六八五六
支那酒		一八九二一五六
醬油		八七五三二五
麥粉	一〇七九三六四袋	三一八二二五三
煙草		六五二四一二四
製村		五九九五七二四
其の他		六三四六六二三
計		一四七八六三二三

二三 鑛業

關東州內の鑛業は苦灰石(製鋼用耐火材料)を主要鑛物として目下相當の產額あるの外他に見るべきもの無く又鑛區としては石綿、金、鐵、重晶石等の設定ありと雖も石綿の一鑛區を除き他は全部休業中なり。

又州內には硅石の埋藏相當豐富にして未だ大量の需要なしと雖も將來製鐵用竝硝子窯業原料として有望なり。

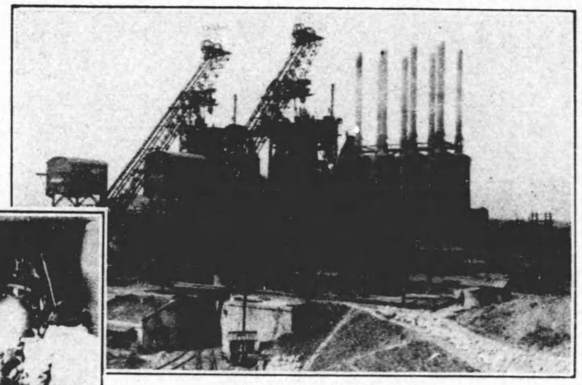
州內の鑛業は前記の如く甚だ貧弱なるも南滿洲の地には鐵、石炭、金等重要鑛物の埋藏頗る豐富にして就中鞍山及本溪湖附近の鐵鑛埋藏量は七億五千萬瓲の多きに達す滿鐵及本溪湖煤鐵公司に於ては曩に鞍山及本溪湖の地を卜し製鐵所を建設し事業は漸次順調に向ひ昨年度に於ける銑鐵產額二十八萬七千餘瓲(鞍山二十二萬四千餘瓲、本溪湖六萬三千餘瓲)に達し更に目下鞍山製鐵所に於て增設中の五百瓲鎔鑛爐一基は本年度內竣成操業の豫定にして又本溪湖は從來既設百五十瓲鎔鑛爐二基の內一基のみを操業中の處本年四月より右二基共に操業するを以て五年度よりは兩製鐵所年產額合計四十一萬瓲(鞍山二十八萬瓲、本溪湖十三萬瓲)出銑の豫定なり。

石炭は撫順炭礦を第一とし煙臺、搭連、本溪湖等の炭礦あり撫順炭礦は埋藏量九億五千萬噸と稱せられ昭和四年度に於て七百三十萬噸を產出する豫定なり。

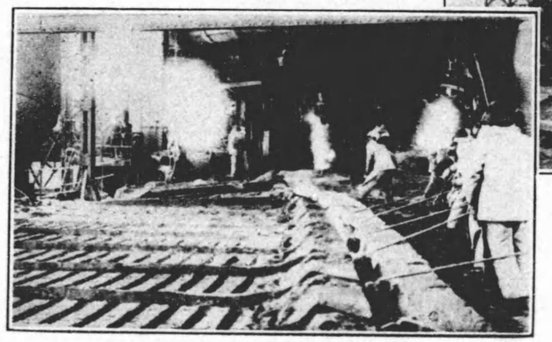
石炭產額

(昭和三年度)

撫順	七、三九五、四一七噸
及煙臺	四九〇、〇〇〇噸
本溪湖	七、八八五、四一七噸
計	



鞍山製鐵所鎔鑛爐(一)



鞍山製鐵所鎔鑛爐(二)

撫順炭礦露天掘

本溪湖煤鐵公司熔鑛爐

二四 漁業

遼東半島は黃海及渤海に面し海岸線七百浬、水深二十尋乃至四十尋にして魚族の廻游多く漁業上便利の位置を占む。

昭和三年末に於ける關東州漁業者は支那人八千八百十五戶二萬二千六百九十四人、日本人八十一戶二百四十九人なり。

州內の漁船は支那人大型漁船(戎克)九百七十隻、小型漁船(舢舨)四千七百二十七隻、日本型漁船二百一隻、發動機附漁船百九十九隻にして此の內發動機附漁船は內地より出漁せしもの百二十五隻なり。

州內漁獲高

(昭和三年)

日本人漁業	二、〇六一、七三二貫	一、四一八、九四二円
支那人漁業	七、五九五、三八九	二、八七八、二三八
計	八、六五七、一二一	四、二九七、一八〇

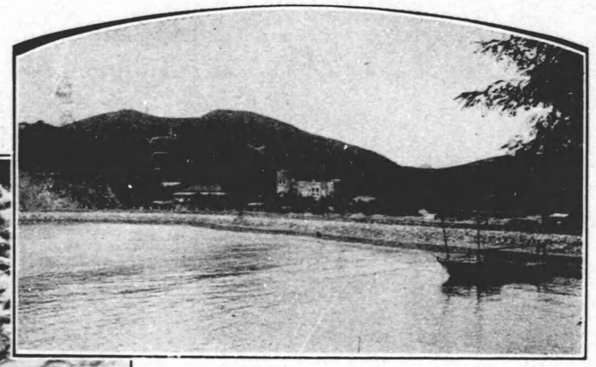
關東州內水產物輸出入の狀況

水產物を鮮魚介、鹽乾魚、海藻及魚介罐詰に大別すれば輸入鮮魚介は旗魚、鰛、鯖、蝦等を主とし朝鮮、臺灣、內地及山東省沿岸より輸入し州內產たる鯛、蝦、黃花魚、大刀魚、鰈等と共に奧地に輸出し內地行は僅少なり。鹽乾魚は沿海州產鹽鱒、鹽鮭、米國產鹽鰊、內地朝鮮產鹽鰯等の輸入品は其の約五割は州內支那人の需用する所となり其の他は奧地に再輸出す。州內漁民の製造せる鹽乾鱈、鹽大刀魚、乾鰯等は南支、中支へ輸出す海藻類たる內地及北海道產の昆布、石花菜等竝內地製魚介罐詰は州內消費の外は奧地に再輸出せらる。

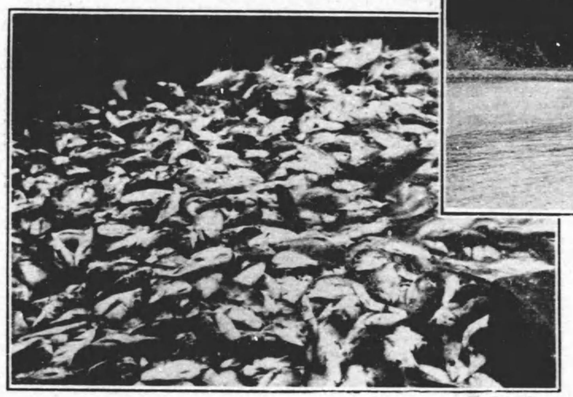
關東州內水產物輸出入

(昭和三年)

種目	輸入	輸出	計
鮮魚介	九〇五〇三円	四九一七五円	
鹽乾魚	二四二五八七四	二二一〇九三一	
海藻	一〇〇〇九五五	五七七八〇	
魚介罐詰	三八八〇六七	二七〇一八四	
計	四七一九九一九	三三九〇六四六	



水産試驗場



龍口沖の漁獲

二五　鹽　業

遼東半島に於ける天日製業は六十餘年の歷史を有し特に關東州は天日製鹽に適し二十餘年來保護奬勵の結果大なる發達を遂げ今や州内の主要産業となれり昭和三年の産額は約四億斤に達し二十年前に比し約十倍の增額とす州外産鹽は分明ならざるも州内産鹽の約七割なりと稱せらる。

州内には既設鹽田約七千町歩の外仍ほ約一萬町歩の未開拓地を存するを以て今後之を完成するときは年額十五億斤以上の産額を見るは困難にあらず。州内産鹽の豐富低廉なるに拘はらず其の販路十分ならざるを以て之を原料とする曹達灰製造工業の現出を見るに至るべし、現在日本需要の曹達灰は年額約十五萬噸にして内地生産額は一萬八千噸に過ぎず。

關東州鹽田面積竝生産額　（昭和三年）

區分	日本人經營	支那人經營	計
鹽田面積	五三六六町	一六六七町	六九九九町
製鹽高	二五五〇〇〇〇〇斤	一九四七八〇〇斤	四四四八〇〇〇〇斤

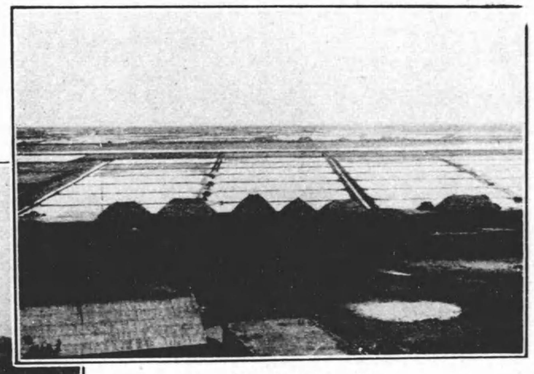
二六　土　木

市區計畫

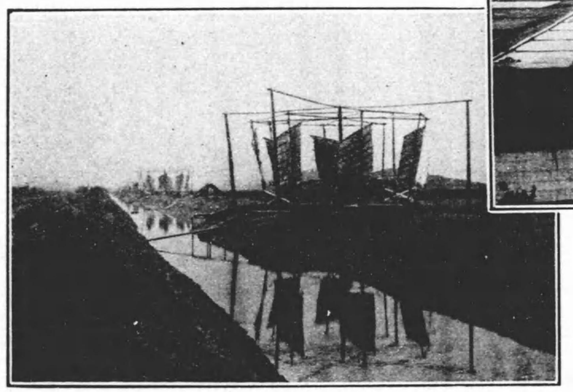
大連市街の市區計畫は露治時代の計畫を襲踏したる大廣場を中心とする約二十五萬坪の市街地に漸次追加を爲し大正八年六月には廳令を以て沙河口一帶に亙る二百五萬餘坪の地域の市區計畫を公布せり現在市街計畫面積は六百四十五萬坪にして之を工場地區、混合地區、住宅地區及商業地區に區分し市街の發展、土地の利用竝保安衞生上遺憾なきを期せり。

旅順の市區計畫は新舊兩市街共大體に於て露治時代の計畫を襲踏し明治四十三年廳議を以て決定したるものにして其の後一部追加變更を爲し現在市區計畫面積六百四十六萬餘坪に達せり。

金州及普蘭店兩市街の市區計畫は未だ決定せざるも金州は大正十五年建築規則の制定に當り舊市街（城内）約二十五萬六千坪及鐵道附屬地二萬七千坪を含めて將來發展すべき大體の市街地域を決定告示し普蘭店は昭和三年建築規則の制定に當り金州同樣將來發展すべき大體の市街地域を決定告示し目下



田鹽窩子虢



鹽田の風車

何れも市區計畫中に屬す。

虢子窩及城子疃兩市街は昭和三年金福鐵道の開通に伴ひ主外通商の要地を占むる關係上異數の發展を來したるを以て在來の市街地區の整理と同時に其の停車場を中心としたる市區計畫の必要を認め城子疃約三十九萬坪虢子窩約五十二萬坪の地域に對し昭和三年一月市區計畫を決定し之を告示せり其の外金福鐵道沿線各驛が鐵道の開通に伴ひ何れも小市街地を形成しつつあるを以て目下之が市區計畫に付考究中なり。

上下水道

官設水道は關東廳水道給水規則に基き所轄民政署長及支署長之が管理者として之を直營し目下旅順、大連及金州の三水道あり。

大連水道は露治時代の極めて小規模なる假設備を繼承し明治三十九年以來昭和三年迄數次の大擴張を經て千八十七萬餘圓の費用を投じたり。

現在の給水能力は王家店及龍王塘水源地より二百二千噸、沙河口水源より二千噸、欒家屯水源より六百噸、合計一日二萬四千六百噸にして日本人十一萬、支那人十四萬人に給水し尙雜用水として約三千噸を供給す。

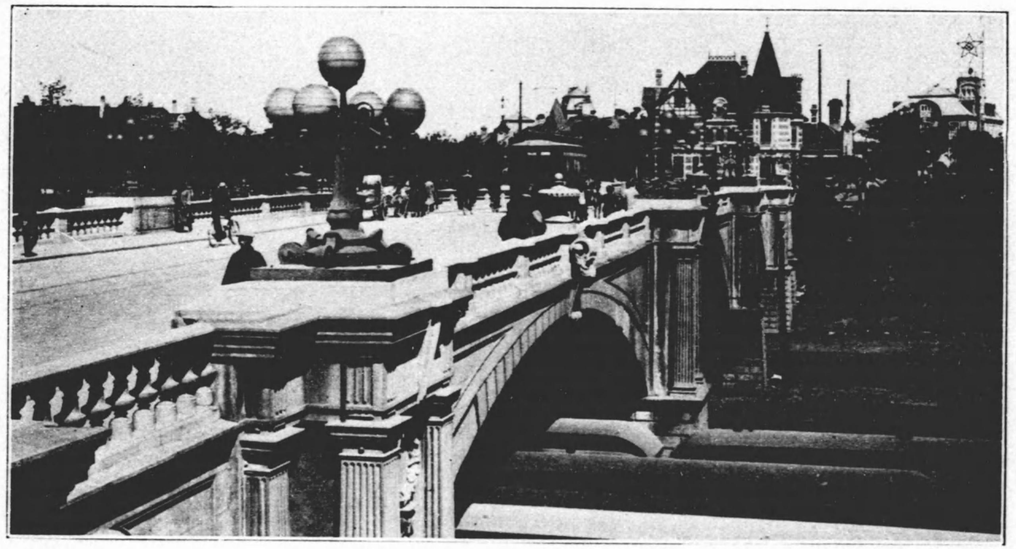
旅順水道は清治時代及露治時代の未完成のものを繼承したるものにして昭和三年度迄に約五十七萬圓の費用を投じ之が擴張改修を爲し今日に及ぶ現在給水能力は龍眼、寺溝及大孤山の三水源を合して三千二百噸、日本人二萬五千人、支那人一萬人に給水することを得。

金州水道は大正十三年起工翌十四年度完成せるが給水能力千五百噸日本人二千五百人、支那人二百人に給水することを得、昭和三年度迄に投じたる費用二十九萬六千餘圓なり。

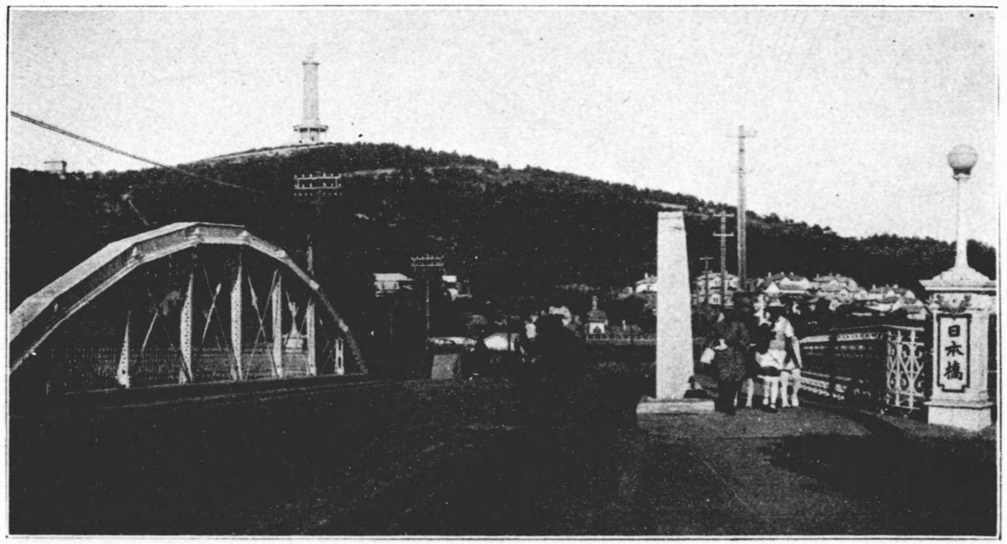
私設水道は州内に於ては周水子に於ける周水土地株式會社の水道、泡崖屯に於ける小野田セメント株式會社の水道等にして州外に於ては營口に於ける營口水道電氣株式會社及滿鐵會社經營に係る鐵道沿線各地の水道等なり。

下水道は市街の發展に伴ひ漸次之を施設し昭和三年度迄に大連市内に約二百五十萬圓、旅順市内に約二十五萬圓を支出せり。

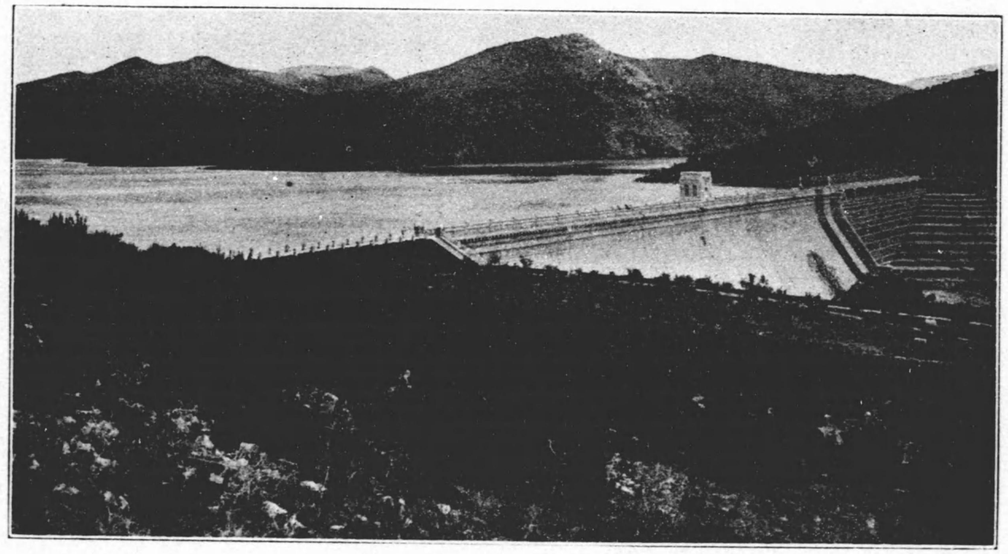
私設下水は州内に於ては關東州下水規則を設け大連及旅順市内の私設下水及屎尿流下の取締を爲し州外に於ては滿鐵會社之を施設せり。



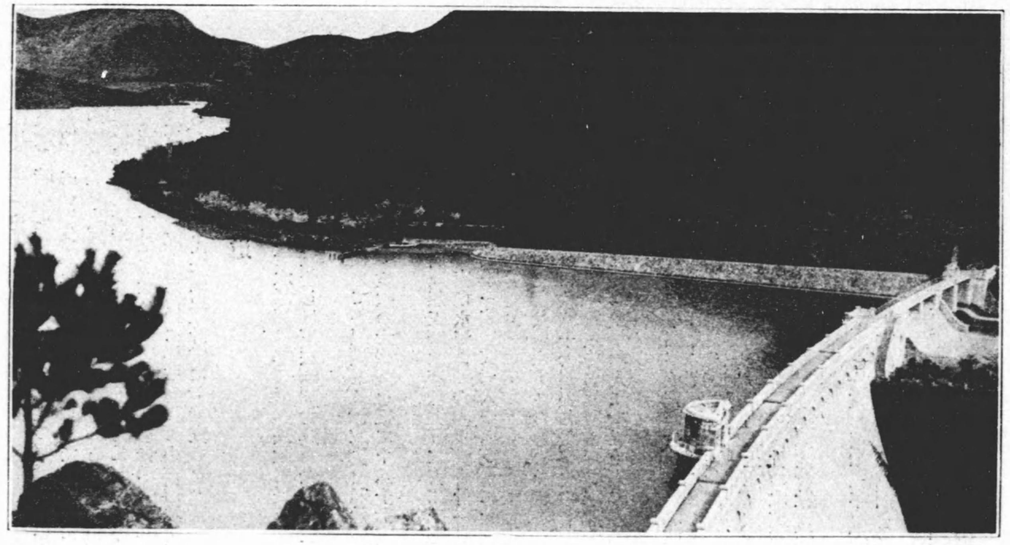
大連日本橋



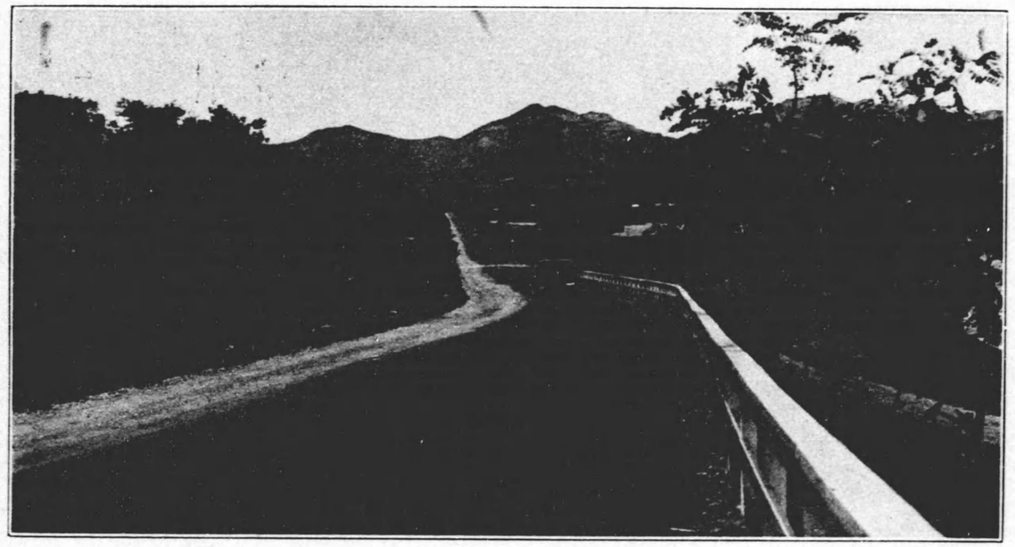
旅順日本橋



龍王塘水源



王家店水源



旅大道路

同　玉の浦

二七　電氣

管内電氣事業は近年小事業者の併合送電系統の連絡等事業統制への進展著しく又電燈供給は從量燈增加し電力供給は小電力裝置の增加急激なるものあり電氣供給の合理化民衆化として注目すべき傾向なり。

管内に於ける電氣事業は旅順、金州、普蘭店及貔子窩の四箇所に於ける官營の分を除き大連、撫順、鞍山、首山、海城、奉天、長春、安東、連山關、瓦房店、熊岳城、大石橋、營口、遼陽、鐵嶺、開原、四平街、公主嶺、范家屯、本溪湖及五龍背の二十一箇所、事業者二十二あり内電氣供給事業者十九、電氣供給及電氣鐵道兼營事業二、電氣鐵道事業一とす其の大部分は滿鐵會社又は其の傍系會社たる南滿洲電氣株式會社の經營又は投資に係るものにして其の業績何れも良好なり。

管内電力供給狀況

（昭和二年度）

電燈

需用家	取付箇數	換算キロワット
八六、九四四	六一〇、三三一	一八、三九一・七

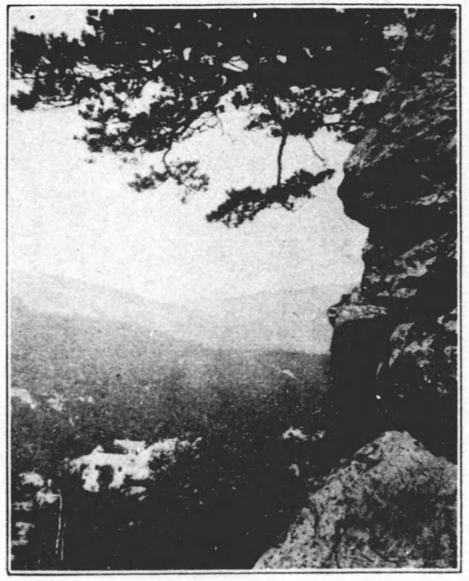
電力

電動機		
需用家	取付箇數	取付馬力數	換算キロワット
一四七二	二、九八五	六六、三一〇・六五	四九、四三六・四

其の他電力裝置		
需用家	裝置數	換算キロワット
九三〇	一七一二	二三、六三六・〇

收入	一二、〇五一、四五三円
支出	九、七六〇、八二一
利益	二、二九一、六〇三
積立金	（損失五六、一四九圓差引）二四六、四六四
配當金	一、六二四、二五〇

安奉線釣魚臺



大連郊外凌水寺

二八　瓦　斯

管内の瓦斯事業は南滿瓦斯株式會社の經營に係る大連、安東、奉天、鞍山、長春の五箇所に滿鐵會社の經營しつつある撫順を加へて六箇所とす。

瓦斯管延長

（昭和三年度末）

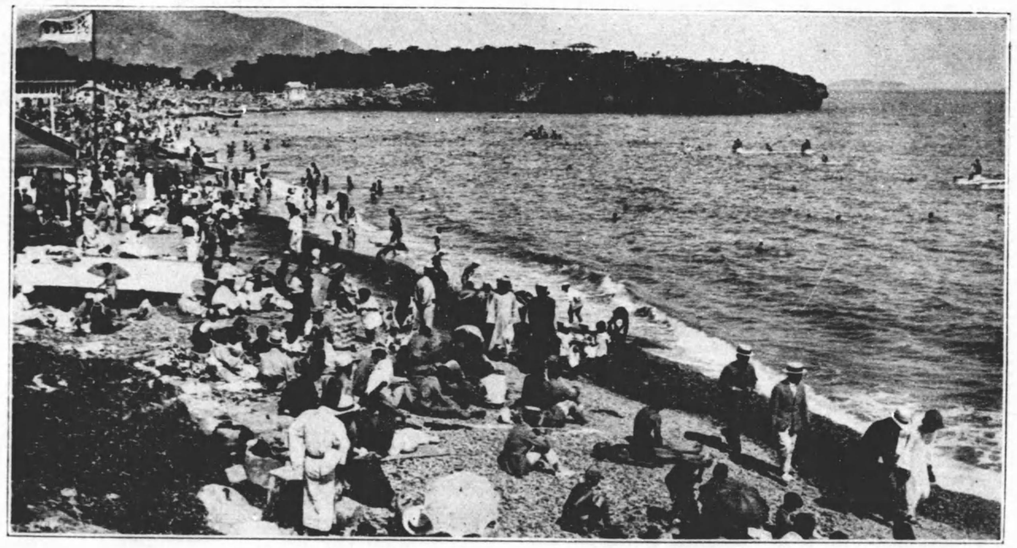
地名	外管	供給管	屋内管
大連	三九二、四八七米	二〇五、九九六、〇九米	二五、九六六、三六米
鞍山	二六、九一六、四九	一四、九二六、二三	一七、七九一、一二
奉天	七四、〇九六、六〇	四四、〇一〇、四〇	六六、一二八、八〇
安東	五一、九九六、七七	六八、七九六、七〇	三三、三九八、〇〇
長春	三四、七九〇、三〇	二〇、八七三、四〇	三、八六六、六〇
撫順	二五、三一四、〇〇	五、二三四、〇〇	—

其の二（製造數量）

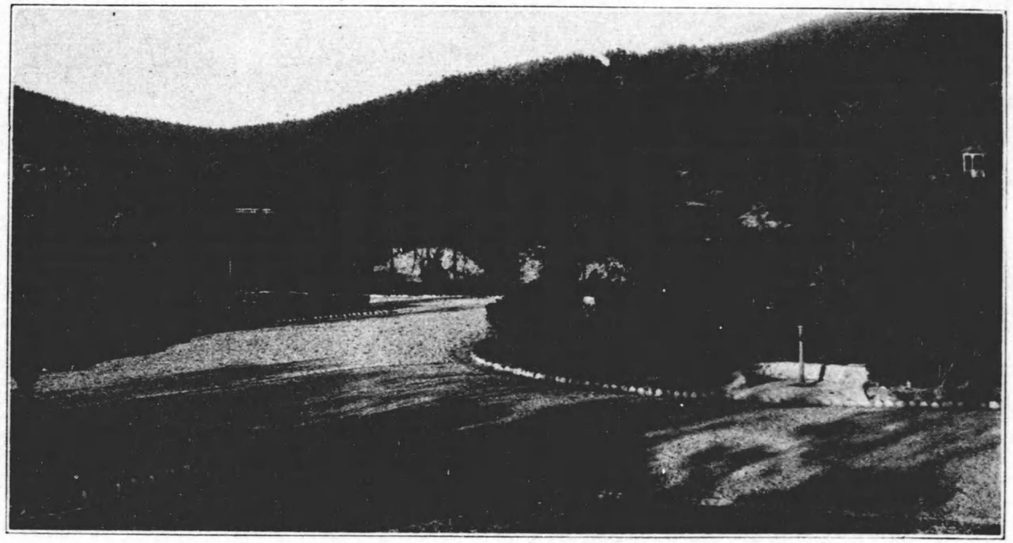
地名	引用家戸數	計量器數	瓦斯製造數量 立方呎
大連	一〇一、一九六	一、九九七、四四	三三三、〇一五、五〇
鞍山	一、四五四	一、四六八	五六、五四〇、〇〇
奉天	四、六四〇	四、六四三	五八、五一二、五五
安東	二、四三九	二、三三三	二四、二六五、四三
長春	一、九六五	一、八一五	二〇、五五三、四五
撫順	二、六五二	二、六五二	

其の三（使用量）

地名	家事用 立方呎	街燈用	工業用	計	料金 円
大連	二四八、二四三、一〇〇	三、七九九、一〇〇	四二、〇四四、三〇〇	二五四、三六三、七〇〇	六、三〇四、八七三
鞍山	一四、五九四、四〇〇	—	一、二四八、八〇〇	一四、六八四、二〇〇	三六、〇六四、二〇
奉天	五一、三四三、三四九	四、二三六、〇	一、七二四、〇九八	五六、一二六、六二一	三六、一二六、六二一
安東	一七、六八八、五三	三、一三六、六	四、〇四一、一七九	二一、七八八、一六八	六五、五六六、三六
長春	六、一五〇、六六八	—	—	六、一五〇、六六八	五三、五三、八三
撫順	—	—	—	一〇、八二四、五五	五八、九六六、六〇



星ヶ浦



大正公園（旅順）

二九　社會施設

1　慈善救濟

日本赤十字社は旅順關東廳内に滿洲委員部を置き旅順、大連、金州、普蘭店、貔子窩、營口、遼陽、奉天、鐵嶺、長春、安東、吉林、哈爾賓、齊々哈爾、鄭家屯の十五箇所に支部を置けり。

昭和四年十月末社員數は日本人四二、四六二人、外國人（主として支那人）四二、三二一人、計八四、七八三人に達せり。

滿洲赤十字社事業の主要なるものは施療救濟、巡回救濟、結核豫防、兒童保健、災害救護、救護員養成、少年赤十字、病院及救療所の經營、學校看護婦設置等にして逐年事業の擴張を行ひ博愛の主旨實現に努めつつあり。

滿洲赤十字事業は其の本領たる慈善救濟の外日支人の接觸と意思疏通の機會を作り日支親善に寄與する所尠からず。

管内に於ける慈善救濟の事業は其の種類多樣なるも基礎未だ確立せざるもの多きを以て關東廳に於ては間接に保護を加へつつあり。社會事業は大連市の社會館、市營住宅、公設質屋等を除くの外は皆個人の事業とす。

財團、社團にして社會事業を目的とする主要團體

名稱	事業
財團法人大連慈惠病院	基督教、博愛主義に依り貧困者の施療及び實費治療を行ふ

同爲仁會	免囚及び之に準すべき者の保護善導
同田崎育英會	學資給與其他育英事業
同大陸青年團	青年に對する國家思想の涵養並人材養成
同關東州勞働保護會	勞働者の保護並授産事業
同大連基督教青年會	青年をして基督を標準として其の心靈知識社交及び身體の狀態を改良せしむ
同維持財團	大連日本基督教會の爲に其の禮拜執行其の他の事業に要する土地建物資金其の他の財産を所有管理す
滿鐵奬學資金財團	人物學業共に優秀なる者に學資を支給す
財團法人宏濟善堂	博愛慈善の主旨に依り貧困にして落魂なき中國人に對し救濟事業を行ふ
社團法人靈教會	惟神の大道を宣傳し敬神崇祖の念を養成す
同大連一信講骨佛千體建立會	戰死者の遺骨を以て佛像を謹製し死者の餘德を追慕し併て國民精神を涵養す
同中日文化協會	滿蒙文化的施設の發達助成
同聖德會	工人の品性陶冶と居住の安定
同天理教大連宣教所	天理教教旨に基き敬神崇祖忠君愛國の念涵養
同大連共榮組合	住宅難の緩和、居住の安定
同日本組合大連基督教會附屬双葉幼稚園	幼兒の保育
同大連大眞會	通俗佛教の弘通普及を期す

法人に非ざる私設團體の慈善救濟事業

（一）救世軍育兒婦人ホーム

困窮せる兒童及婦人の救濟を目的とするものにして昭和三年度中に於ける收容延人員兒童一五、二一九人、婦人四、四四七人、合計一九、六六六人なり。

昭和三年中に於ける經費は一萬四千五百餘圓にして主として各方面の補助及寄附を以て之に充つ。

（二）大慈園

扶養者なき幼老を收容保護するを主たる目的とし昭和二年中に於ける收容延人員一一、九三四なり。同年度に於ける經費は九、五八四圓六五にして官廳の補助及其の他の寄附に依り維持す。

2 公園、温泉、新聞雜誌

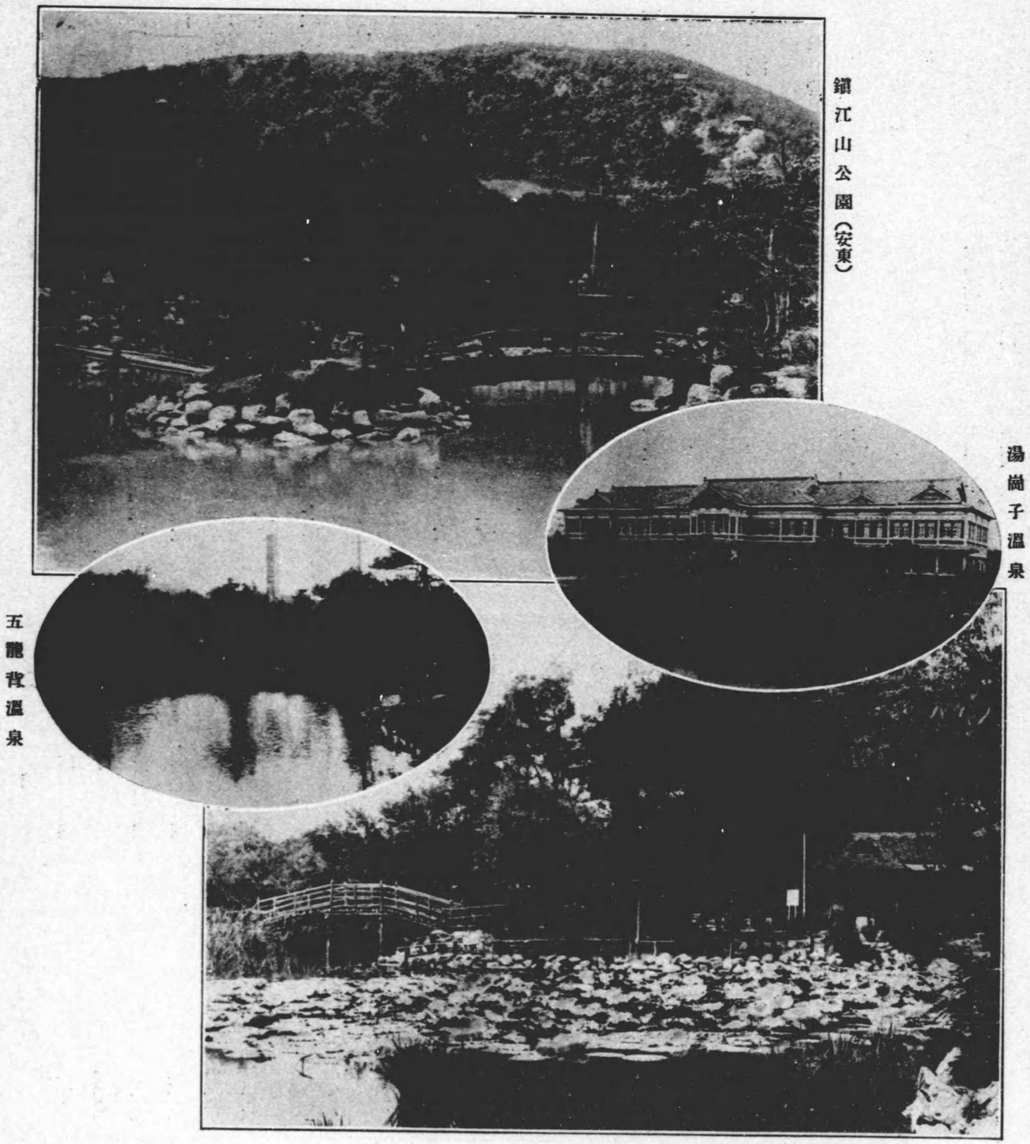
公園は各都市概ね之を有せざるなく旅順の後樂園、大正公園、大連の中央公園、星ヶ浦、安東の鎭江山公園、長春の西公園等名あり。

温泉は熊岳城、湯崗子、五龍背の三箇所に在り何れも滿鐵沿線に接し完全なる設備を有せり。

新聞雜誌

（昭和四年十月末）

區分	關東州	滿鐵附屬地	計
總數	一五二	七三	二五五
有保證金 日刊	一〇	一六	二六
週刊	一三	一	一四
旬刊	一一	一一	二二
月刊	三三	八	四一
計	二七	七	三四
無保證金 日刊	二七	五	三二
週刊	四	一	五
旬刊	五	五	九
月刊	一〇六	四二	一五六
一以上	二	一	三
其他	二		二
計	一五六	四五	二〇〇



鎭江山公園（安東）

湯崗子温泉

五龍背温泉

後樂園（旅順）

三〇　南滿洲鐵道株式會社

明治三十八年九月五日露講和條約第六條に依り我國は東清鐵道會社に屬したる長春旅順間の鐵道及其の一切の支線竝之に屬する一切の權利、特權、財産及炭坑を露國より讓受けたるを以て本鐵道の經營に當ることとなり翌三十九年六月會社設立の準備に著手し同年十二月一切の手續を終へ翌四十年四月一日野戰鐵道提理部其の他の官憲より鐵道其の他の引繼を受け業務を開始せり。

會社の資本金は當初金二億圓なりしが事業の發展に依り大正九年四月增資を行ひ四億四千萬圓となせり滿鐵會社創立せられてより玆に二十三年運輸業の外鑛業、倉庫業、鐵道附屬地に於ける土地及家屋の經營等皆順調なる發達を遂げ會社自身の營業成績良好なるのみならず滿洲の資源を世界に紹介し滿洲文化の開發に寄與したるもの至大なり以下會社事業の主要なるものに就き其の要綱を摘記す。

イ　鐵道

鐵道哩數	
全線	六九〇・八哩
內譯	
幹線	
連長線（大連埠頭長春間）	四三八・五
安奉線（安東蘇家屯間）	一六一・七
支線	
旅順線	三一・六
營口線	一三・九
煙臺炭礦線	九・七
撫順線	三二・九
渾楡連絡線	二・五
未開業線（大房身柳樹屯間）	三・六
車輛數	
機關車	四四一輛
客車	四八六
貨車	七、〇二三
車掌車	二三七
線路設備	
軌幅	四呎八吋半
軌道延長	二、五四五粁
停車場	一一七
機關庫數	一一
倉庫設備	
大連埠頭	六七棟 三一二、四八二平方米
其の他	九七 一二三、七二八
計	一六四 四三六、二一〇

昭和三年度中旅客及貨物輸送成績

乘車人員	九、七〇二・一一九人
貨物取扱噸數	一九、三二三・五一四噸
收入	一一八、六三九・〇八九圓
支出	四四、三五八・〇六五圓

工場

工場は沙河口及遼陽に之を置き車輛、機械其の他社用品の製作及修繕を爲す。沙河口工場は機關車二七輛、客車三六輛、貨車一三〇輛を同時に收容し諸機械及器具の製造修繕を爲すことを得。遼陽工場は一箇年機關車一一〇輛、貨車一、七〇〇輛の改造修繕及鐵道工事用又は車輛用補修品の製作修理を爲す能力を有せり。

港灣

大連、旅順、營口、安東及上海の築港護岸棧橋に依り鐵道と連絡して石炭其の他輸出入貨物を取扱ふ。近時大連港集散貨物の增加に伴ひ船舶亦輻輳して昭和三年度內著埠船舶は四千五百三隻、總噸數千七百九十九萬八千九百六噸を算せり。

大連埠頭施設

防波堤延長	一三、一三七尺
同　內水面積	約九〇萬坪
繫船護岸延長	一五、一九九尺
使用船舶	
小蒸汽船 一六隻	總噸數 二、一三六噸
石炭積込機	一　基
能力　一時間	九〇〇噸
倉庫及上屋	七八棟　九萬九千坪
野積場	約九萬八千坪

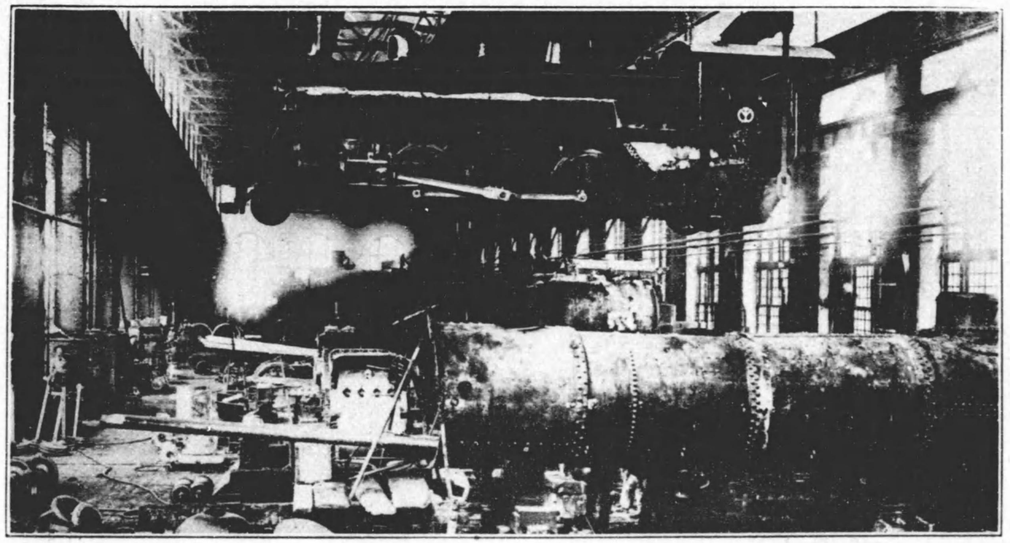
外に甘井子石炭專用埠頭一、二一七二尺、防波堤二、三一〇尺目下築造中。

大連埠頭能力

繫船能力	大凡五千噸級三七隻　十九萬噸

昭和三年度輸出入取扱貨物及收支

輸入貨物	一、三八〇・五三四噸



沙河口工場

總出貨物	七、七九〇、六五九瓲
收入	一〇、七八五、四三五圓
支出	八、三二三、六〇〇圓

鑛業

撫順及煙臺の炭礦採掘を主要事業とし電氣工場、硫酸工場、石炭乾餾工場等の諸工業及水道、電氣鐵道、電燈、電話等を經營す。

地方經營

會社は政府の命令書に依り鐵道及附帶事業の用地内に於ける土木、教育、衞生等に關し必要なる施設を爲すべき義務を負擔すると同時に其の費用を支辨する爲め政府の認可を受け居住者に對し手數料を徵收し其の他必要なる費用の分賦を爲すことを得るの權能を附與せらる。

地方經營に要する費用は附屬地内公共事業の施設に屬するものは總て會社に於て負擔し其の維持修繕竝衞生、教育及警備に屬する經常費の一部を居住者の負擔と爲しつつあり昭和三年度中に於ける費用支出額左の如し。

會社負擔	三、〇五〇、六六六、一八円
居住者負擔	九三八、八〇七、五三

地方經營の項目

土地及建物の管理貸付
市街經營
衞生施設（醫院、療養所、衞生研究所）
教育施設
警備施設（消防及警戒の業務）
產業施設
商工施設
產業助成（昭和三年度支出二、五〇八、〇六六圓 昭和四年度豫算三、〇〇〇、〇〇〇圓）
中央試驗所（化學工業其の他一般理化學的經濟的試驗研究調査）
地質調査所
水道設備

會社の豫算

（昭和四年度）

事業費

鐵道	一六、三六三、一四〇円
工場	二六〇、〇〇〇
港灣	八、三二八、三八四
鑛山	六、七三四、四〇七
製油工場	二、〇四五、八〇〇
製鐵所	四、二〇三、八三〇
地方施設	二、八一六、三九〇
雜施設	四、〇四二、八七七
豫備費	五、〇〇〇、〇〇〇
計	四九、七九四、八二八

營業收支豫算

收入	二四八、八四〇、九四四円
支出	二〇八、七三一、八五九

昭和五年四月十五日印刷
昭和五年四月二十日發行

關東廳長官官房文書課
大連市東公園町二十一番地

印刷者 吾妻力松
大連市東公園町二十一番地

印刷所 滿洲日報社印刷所

34M55